

科目名	社会福祉原論A		科目コード	W31003	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWFF1-04. H	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	松本 郁代			授業 形態	講義	単独	
	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 社会福祉と社会福祉学の違いを確認し、社会福祉政策を学ぶ。また、生活問題を抱えることが自己責任として捉えられてきたことについて、科学的に認識することによって、そもそも社会福祉という営みが、どのように人々に受け入れられていったのかについて講義する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 社会福祉学を学問として身につけること。</p>									
到達 目標	社会福祉政策及び社会福祉の制度を理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	社会福祉とは何か			社会福祉と「福祉」との違い、社会福祉の定義						
第2回	社会福祉の存在意義とは			社会福祉の存在理由を問う						
第3回	社会福祉政策と社会問題①			社会福祉政策の対象とは						
第4回	社会福祉政策と社会問題②			社会福祉の対象としての生活問題						
第5回	社会福祉政策の現代的課題			社会的排除と社会的包摂						
第6回	社会福祉の歴史を学ぶにあたって			社会福祉の歴史を学ぶ必要はないか？						
第7回	欧米の社会福祉の歴史①			欧米の前近代社会における社会福祉の歴史						
第8回	欧米の社会福祉の歴史②			欧米の近代社会における社会福祉の歴史①						
第9回	欧米の社会福祉の歴史③			欧米の近代社会における社会福祉の歴史②						
第10回	欧米の社会福祉の歴史④			欧米の現代社会における社会福祉の歴史①						
第11回	欧米の社会福祉の歴史⑤			欧米の現代社会における社会福祉の歴史②						
第12回	社会福祉政策の論点と構成要素①			社会福祉政策						
第13回	社会福祉政策の論点と構成要素②			社会福祉における普遍主義・選別主義						
第14回	社会福祉政策の論点と構成要素③			自己決定とパターンリズム、スティグマ・エンパワーメント						
第15回	社会福祉政策の論点と構成要素④			社会福祉政策の国際比較、福祉国家論						
評価 方法 及び 評価 基準	試験（客観式・短答式）のみで評価									
課題等	その都度、指示をする。									
事前事 後学修	学術雑誌の論文の閲覧について、その都度、指示をする。									
教材 教科書 参考書	井村圭壮・藤原正範編(2007)『日本社会福祉史』勁草書房, ISBN:978-4-326-60197-4 岩崎晋也(2018)『福祉原理 社会はなぜ他者を援助する仕組みを作ってきたのか The principles of Welfare:Why Has Society Been Creating a System of Helping Strangers ? 』有斐閣, ISBN:978-4-641-17442-9 室田保夫(2018)『社会福祉 新・基礎からの社会福祉』ミネルヴァ書房, ISBN:978-4-623-08295-7 ミネルヴァ書房編集委員会編集部(2023)『社会福祉小六法2023』ミネルヴァ書房, ISBN:未定									
留意点	遅刻・私語厳禁、ただし公共交通機関遅延の場合は、遅延証明書を持参のこと。									

科目名	社会福祉原論B		科目コード	W31004	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWFF1-05.H		30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修 必修	担当者名	松本 郁代			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	[授業の主旨] 社会福祉理論の生成過程の一端を社会事業理論から確認し、現在の社会福祉理論について整理する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] 前期と同様									
到達 目標	戦前の社会事業理論が、どのように現在の社会福祉政策や理論につながってくるのか、その歴史的系譜を理解すること。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	社会福祉政策と関連政策		社会福祉政策と教育・労働・住宅・医療の各政策							
第2回	相談援助活動と社会福祉政策		相談援助活動と社会福祉政策の関係を探る							
第3回	社会福祉政策・理論研究と社会福祉原論研究		社会福祉の独自性？							
第4回	社会福祉実践の歴史的系譜		日本における社会福祉援助の源流、医療と社会福祉の分かれ目							
第5回	社会事業理論を学ぶにあたって		社会事業理論と社会福祉理論の連続性							
第6回	社会事業理論としてのケースワーク論		岡本民夫（1973）『ケースワーク研究』ミネルヴァ書房							
第7回	戦前の社会事業理論①		三好豊太郎							
第8回	戦前の社会事業理論②		小澤 一							
第9回	戦前の社会事業理論③		福山政一							
第10回	戦前の社会事業理論④		竹内愛二							
第11回	戦前の社会事業理論⑤		大河内一男・風早八十二							
第12回	戦後の社会福祉理論①		孝橋正一・岡村重夫							
第13回	戦後の社会福祉理論②		新政策論							
第14回	戦後の社会福祉理論③		運動論の源流							
第15回	社会福祉理論の展望		これからの社会福祉理論							
評価 方法 及び 評価 基準	社会福祉原論Aと同様									
課題等	社会福祉原論Aと同様									
事前事 後学修	社会福祉原論Aと同様									
教材 教科書 参考書	社会福祉原論Aと同様									
留意点	社会福祉原論Aと同様									

科目名	介護概論		科目コード	W31007	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	川村 泰子・小野 綾			授業 形態	講義	オムニバス	
授業の 概要等	[授業の主旨] 少子高齢化、核家族化の進行、高齢者世帯の増加、女性の就労の増大などを背景として介護を取り巻く状況は変化し、生活する上で避けられない課題である。住み慣れた地域で介護の歴史や介護の概念・理念について学ぶ。また、生活の場における介護の特性を理解し、介護に必要とされる基本的な知識を学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1及び2に関連している。									
到達 目標	1. 高齢者を取り巻く社会の状況を理解できる。 2. 介護の歴史や課題について理解できる。 3. 高齢者の特性を理解し、介護過程に活かすことができる。 4. 高齢者を支援するための地域における連携について考えることができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	高齢者保健福祉の発展 (1)		介護の概念・介護の目的を理解する 法的な概念・歴史について						川村	
第2回	高齢者保健福祉の発展 (2)		超高齢社会における介護について家族や就労、経済的な課題						川村	
第3回	高齢者の特性と介護 (1)		加齢に伴う身体機能、精神機能の変化から生じる疾病や生活障害						小野	
第4回	" (2)		高齢期における生活の変化、社会参加などの実態と生活に及ぼす影響						小野	
第5回	" (3)		高齢者の自立に向けた介護						小野	
第6回	" (4)		介護を必要とする高齢者を支援する専門職の役割						小野	
第7回	介護過程を理解する (1)		介護保険制度の基本的知識、課題						川村	
第8回	" (2)		ICFについて理解する 介護過程の意義と内容を理解する						小野	
第9回	" (3)		高齢者をアセスメントする方法、情報整理、支援方法						小野	
第10回	" (4)		介護を予防する方法						小野	
第11回	" (5)		認知症の理解と要介護者・家族への支援方法						小野	
第12回	高齢者を支援する (1)		高齢者が抱える健康・介護の課題と支援						川村	
第13回	" (2)		高齢者の介護を行っている家族への支援方法						川村	
第14回	" (3)		高齢者を支える地域のシステム・連携						川村	
第15回	まとめ		まとめ							
評価 方法 及び 評価 基準	1) 2/3以上の出席者について、出席状況、リフレクションペーパー、レポート、定期試験を組み合わせ総的に評価する。 2) リフレクションペーパーは、すべての授業終了後に提出することで5%を加算する。 3) 定期試験は80%とする									
課題等	課されたレポートは必ず提出してください。 レポート及びリフレクションペーパーは返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考意図書は読んでください。必要時レポートを書いてもらいます。 教科書は読んでいることを前提としています。									
教材 教科書 参考書	新・社会福祉士養成講座 13 『高齢者に対する支援と介護保険制度』、中央法規出版 第6版 2021 ISBN: 978-4-8058-5807-3									
留意点	・授業で紹介された文献・国民の福祉の動向・保険と年金の動向など自己学習による積み重ねが重要です。 ・ニュースなど社会の動向に関心をもち考えることが重要です。									

科目名	介護実技		科目コード	W31008	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWFF1-09.		30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	高田 まり子, 川村 泰子, 幸山 靖子, 阿部 智美			授業 形態	実技	複数	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会福祉を基盤とした介護を実践するために、必要な知識を学習し、生活支援技術を修得する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーの1・2に関連している。									
到達 目標	1. 介護技術に関連する基礎的知識を実践方法を理解する。 2. 生活支援技術を実践し、修得する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	援助関係を築く基本とコミュニケーション		1. 援助の人間関係とは 2. コミュニケーションの基本と効果的な方法						講義 (幸山・阿部)	
第2回	一般状態の観察		1. 介護における観察の意義 2. 一般状態の観察方法						講義 (幸山・阿部)	
第3回	高齢者の自立支援と生活環境		1. 生活環境とは 2. 高齢者の社会参加と自立支援 3. 高齢者に住みよい街づくり						講義 (川村)	
第4回	居住環境の整備		1. 高齢者の自立を支援する居住環境 2. 居住環境と介護						講義 (川村)	
第5回	睡眠と休息の介護		1. 高齢者の休息と睡眠 2. 休息と睡眠の支援						講義 (川村)	
第6回	運動と移動の介護 (1)		1. 運動や移動の意義と目的 2. ボディメカニクスを活用した介助方法						講義・実技 (幸山・阿部)	
第7回	運動と移動の介護 (2)		1. 移動の自立に向けた用具・道具の活用 2. 車椅子への移乗と移送の方法						講義・実技 (幸山・阿部)	
第8回	食事の介護		1. 食事の意義と目的 2. 食事を援助する方法						講義・実技 (幸山・阿部)	
第9回	口腔の清潔の介護		1. 口腔ケアの目的と心身への効果 2. 口腔ケアの方法						講義・実技 (幸山・阿部)	
第10回	排泄の介護		1. 排泄の意義と目的 2. 排泄介護の特徴 3. 排泄行為の援助方法						講義・実技 (幸山・阿部)	
第11回	身体の清潔、身じたくの介護 (1)		1. 入浴・清潔保持、身じたくの意義と目的 2. 清潔保持の援助方法						講義 (幸山・阿部)	
第12回	身体の清潔、身じたくの介護 (2)		1. 清潔保持の援助方法 2. 整容と衣服の着脱の援助方法						講義・実技 (幸山・阿部)	
第13回	緊急時の介護		1. 高齢者に起こりやすい事故とその予防 2. 緊急時における連携						講義 (高田)	
第14回	終末期の介護		1. 終末期ケアの意味と介護の役割 2. 危篤時、死後の介護の方法						講義 (高田)	
第15回	まとめ		授業の総まとめ						筆記試験	
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者について、参加状況 (10%)、ミニレポート (10%)、筆記試験 (80%) で評価する。 ★試験配分: 阿部 (30点)、幸山 (20点)、川村 (23点)、高田 (12点)、阿部・幸山ミニ レポート等 (15点)									
課題等	ミニレポートを課す。提出後は教員が内容を確認し、返却する。									
事前事 後学修	予習復習を怠らないこと。									
教材 教科書 参考書	社会福祉士養成講座編集委員会 編集 新 社会福祉士養成講座 13 『高齢者に対する支援と介護保険制度』 中央法規出版 ISBN: 978-4-8058-5807-3 その他、随時資料を配付する。									
留意点	毎回「ミニレポート」を記載し、提出をもって出席とします。 実技の際は、身だしなみを指示します。									

科目名	精神保健福祉援助技術総論		科目コード	W31019	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング			W-PWFF1-18.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	葛西 久志			授業 形態	講義	単独	
	精神保健福祉士指定科目	必修								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	はじめに、精神保健福祉士と社会福祉士の役割と意義では、両福祉士の誕生から資格が制度化されるまでの経緯について説明する。また精神障害者の処遇の過去・現在・未来について検証し、福祉士としての基本理念と基本的視点を理解する。次に、相談援助の定義・価値・理念等については、2014年グローバル定義におけるソーシャルワークの定義について説明する。さらに、精神保健福祉分野における相談援助の体系と、精神保健福祉士の専門職性では歴史的研究から、その概念と現在の具備的条件について検証する。そして、精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲、精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助とチームアプローチのついて説明する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。									
到達 目標	現在の精神障害者の概況について知る。その上で精神保健福祉士の歴史的経緯と福祉専門職としての基本理念、視点を学ぶ。次に、精神障害者への処遇の過去、現在、未来を学ぶと共に、障害者福祉の基本施策から処遇の在り方について検討していく。さらに、精神保健福祉士に対する社会的ニーズと対応施策から、様々な分野における役割について学ぶ。そして、本科目の中心的テーマである精神保健福祉士の専門性について、精神保健福祉士法、倫理綱領、専門職性など様々な観点から考察して学ぶ。講義後半は、相談援助の定義と概念として、社会福祉士と精神保健福祉士の固有の業務である「相談援助」を比較し、その違いについて学ぶ。また、国際ソーシャルワークの定義や、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション、チームアプローチについて学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	精神保健福祉士の役割と意義 精神障害者の概況、他			①精神病床入院患者の疾病別内訳、②平均在院日数、③入院者の年齢別割合、④児童期・思春期の精神障害など概況調査の資料の確認				視聴覚（スライド）使用		
第2回	精神保健福祉士の役割と意義、社会福祉士の役割と意義、他			①精神科ソーシャルワーカーの諸外国、日本での成り立ち、②福祉専門職の基本理念と基本的視点				視聴覚（スライド）使用		
第3回	精神保健福祉士の役割と意義 精神障害者への処遇、他			①精神障害者への処遇（過去・現在・未来）、②精神障害者の特性				視聴覚（スライド）使用		
第4回	精神保健福祉士の役割と意義、社会福祉士の役割と意義、他			①精神保健福祉士の活動拡大と施策、②障害者福祉の基本的施策				視聴覚（スライド）使用		
第5回	精神保健福祉士の役割と意義、他			①精神保健福祉士の専門性、②精神保健福祉士法の重要項目、③精神保健福祉士の役割、④精神保健福祉士の倫理				視聴覚（VTR）使用		
第6回	社会福祉士の役割と意義、形成過程、他			①社会福祉士誕生の背景、②岸・仲村論争、③新たなソーシャルワークの展開				視聴覚（スライド）使用		
第7回	相談援助の定義と概念、他			①福祉士の固有の業務「相談援助」の意味、②2014年グローバル定義におけるSWの定義				視聴覚（スライド）使用		
第8回	相談援助の価値と理念、他			①理念と価値、②ウエルビーイング（well-being）、③社会正義、④利用者主体と利用者主導、⑤尊厳の保持・人権擁護・権利擁護				視聴覚（スライド）使用		
第9回	相談援助の価値と理念、他			⑥精神科医療機関における「相談援助」の変化、⑦人権、人間の尊厳、⑧ソーシャル・インクルージョン、⑨ノーマライゼーションなど				視聴覚（スライド）使用		
第10回	精神保健福祉分野における相談援助の体系			①医療機関における専門的活動、②地域生活支援における専門的活動、③司法における専門的活動				視聴覚（スライド）使用		
第11回	精神保健福祉分野における専門職の概念			①福祉士専門職に対する概念の歴史の変遷、②専門職固有の業務である「相談援助」の違い				視聴覚（スライド）使用		
第12回	精神保健福祉分野における専門職の概念			③国家資格がない時代の専門職としての位置づけ、④現在の福祉士専門職としての具備的条件				視聴覚（スライド）使用		
第13回	相談援助における権利擁護の概念と範囲			①障害者の権利に関する国際的な流れ、②障害者権利条約、③権利擁護				視聴覚（スライド）使用		
第14回	精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割			④権利擁護における5つの機能、⑤精神科医療システムにおける人権擁護（精神医療審査会）				視聴覚（スライド）使用		
第15回	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携			①チームアプローチとは何か、②チームアプローチの原則・モデル・機能・課題、③精神障害者アウトリーチ事業				視聴覚（スライド）使用		
評価 方法 及び 評価 基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。レポート課題（20%）定期試験（80%）で評価する。レポート課題は、その時の講義内容を踏まえ自分の考えを論理的に記述しているかを評価する。定期試験は、講義全体の内容についての程度理解したかを評価する。									
課題等	精神保健福祉士とは、どのような専門職なのかを知るために									
事前事後 学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神保健福祉士が執筆した書籍を読む。また、精神科専門雑誌である「精神科臨床サービス」星和書店なども参考にする。									
教材 教科書 参考書	新・精神保健福祉士養成講座 第3巻「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）」 第2版 中央法規出版（ISBN978-4-8058-5118-0）									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ 【2020年度以前入学生】		科目コード	W32022	単位数	4単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PWPF3-08.	時間	60時間				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小川 幸裕・丸山 龍太			授業 形態	演習	クラス分	
授業の 概要	【授業の主旨】 ソーシャルワーカーの実際を、ロールプレイなどを交えて実体験し、実際の技術を習得する。相談援助の知識と技術に係わる他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。この目的達成のため、本演習は20人以下の少人数クラス編成による並行で開講し、基本的には事例を用いてグループ討論、ロールプレイングなどによる体験学習を重視する。									
	【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1及び2に関連している。									
到達 目標	①社会問題を基盤とした相談援助事例に関するアセスメントができる。 ②相談援助事例の検討をとおして実践モデル、アプローチを理解し説明できる。 ③相談援助事例のアセスメントを相談援助実践の価値・知識・技術を身につける。 ④相談援助事例のロールプレイをとおして相談援助実践の価値・知識・技術を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考	
第1回	オリエンテーション	1) 演習授業の進め方の説明 2) グループワークの心構え			第16回	オリエンテーション	1) 演習授業の進め方の説明 2) グループワークの心構え			
第2回	虐待（児童）への相談 援助演習（1）	1) 事例のアセスメント発表 2) 事前学習シート①の確認 3) 振り返りシート①の記載		グルー プワ ーク	第17回	医学・生活・ストレング スモデルに関する相談援 助演習（1）	1) 事例のアセスメント発表 2) 事前学習シート①の確認 3) 振り返りシート①の記載		グルー プワ ーク	
第3回	虐待（児童）への相談 援助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート②の確認 3) 振り返りシート②の記載		グルー プワ ーク	第18回	医学・生活・ストレング スモデルに関する相談援 助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート②の確認 3) 振り返りシート②の記載		グルー プワ ーク	
第4回	虐待（高齢者）への相 談援助演習（1）	1) 事例のアセスメント発表 2) 事前学習シート③の確認 3) 振り返りシート③の記載		グルー プワ ーク	第19回	心理社会的アプローチに 関する相談援助演習 （1）	1) 事例のアセスメント発表 2) 事前学習シート③の確認 3) 振り返りシート③の記載		グルー プワ ーク	
第5回	虐待（高齢者）への相 談援助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート④の確認 3) 振り返りシート④の記載		グルー プワ ーク	第20回	心理社会的アプローチに 関する相談援助演習 （2）	1) 事例課題の発表 2) 事前学習シート④の確認 3) 振り返りシート④の記載		グルー プワ ーク	
第6回	障害者（精神障害）へ の相談援助演習（1）	1) 事例のアセスメントの発表 2) 事前学習シート⑤の確認 3) 振り返りシート⑤の記載		グルー プワ ーク	第21回	問題解決アプローチに関 する相談援助演習（1）	1) 事例のアセスメントの発表 2) 事前学習シート⑤の確認 3) 振り返りシート⑤の記載		グルー プワ ーク	
第7回	障害者（精神障害）へ の相談援助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート⑥の確認 3) 振り返りシート⑥の記載		グルー プワ ーク	第22回	問題解決アプローチに関 する相談援助演習（2）	1) 事例課題の発表 2) 事前学習シート⑥の確認 3) 振り返りシート⑥の記載		グルー プワ ーク	
第8回	中間まとめ	1) 前期前半の振り返り 2) グループ発表		グルー プワ ーク	第23回	1) 後期前半の振り返り 2) グループ発表	1) 後期前半の振り返り 2) グループ発表		グルー プワ ーク	
第9回	社会的排除に関する相 談援助演習（1）	1) 事例のアセスメントの発表 2) 事前学習シート⑦の確認 3) 振り返りシート⑦の記載		グルー プワ ーク	第24回	エンパワメントアプロ ーチに関する相談援助演 習（1）	1) 事例のアセスメントの発表 2) 事前学習シート⑧の確認 3) 振り返りシート⑧の記載		グルー プワ ーク	
第10回	社会的排除に関する相 談援助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート⑧の確認 3) 振り返りシート⑧の記載		グルー プワ ーク	第25回	エンパワメントアプロ ーチに関する相談援助演 習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート⑧の確認 3) 振り返りシート⑧の記載		グルー プワ ーク	
第11回	家族システム論に関 する相談援助演習（1）	1) 事例のアセスメントの発表 2) 事前学習シート⑨の確認 3) 振り返りシート⑨の記載		グルー プワ ーク	第26回	ナラティブアプローチに 関する相談援助演習 （1）	1) 事例のアセスメントの発表 2) 事前学習シート⑨の確認 3) 振り返りシート⑨の記載		グルー プワ ーク	
第12回	家族システム論に関 する相談援助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート⑩の確認 3) 振り返りシート⑩の記載		グルー プワ ーク	第27回	ナラティブアプローチに 関する相談援助演習 （2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート⑩の確認 3) 振り返りシート⑩の記載		グルー プワ ーク	
第13回	普及啓発に関する相 談援助演習（1）	1) 事例のアセスメントの発表 2) 事前学習シート⑪の確認 3) 振り返りシート⑪の記載		グルー プワ ーク	第28回	解決志向アプローチに関 する相談援助演習（1）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート⑪の確認 3) 振り返りシート⑪の記載		グルー プワ ーク	
第14回	普及啓発に関する相 談援助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート⑫の確認 3) 振り返りシート⑫の記載		グルー プワ ーク	第29回	解決志向アプローチに関 する相談援助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート⑫の確認 3) 振り返りシート⑫の記載		グルー プワ ーク	
第15回	まとめ	1) 前期後半の振り返り 2) グループ発表		グルー プワ ーク	第30回	まとめ	1) 後期後半の振り返り 2) グループ発表		グルー プワ ーク	
評価 方法 及び 評価 基準	事前学習シート48%、振り返りシート48%、演習への参加度4% 事前学習シート：前期12回、後期12回の記載を課す。配点は1回2点とし、ルーブリックを用いて評価する。 振り返りシート：前期12回、後期12回の記載を課す。配点は1回2点とし、ルーブリックを用いて評価する。 演習への参加度：議論への参加姿勢を評価の対象とする。 ※3分の1以上欠席した学生は評価の対象としない。 ※前期終了時点で30点未満の学生は評価の対象としない。									
課題等	毎回、次のワークシートに関する予習を行うこと。内容は、前週に提供する予習シートに沿って、提出された課題を行う。									
事前事後学 修	上記の課題を、毎回行うことで事前学習とする。また、当日提供するワークシートの内容を授業後に読み直し事後学習を行う。									
教材 教科書 参考書	日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士相談援助演習』中央法規 ISBN 978-4-8058-5123-4									
留意点	演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。									

科目名	精神保健福祉援助技術各論A		科目コード	W32026	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目		科目ナンバリング	W-PWPF3-09.	時間	30時間				
区分	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 ・精神保健福祉における歴史的展開(精神保健福祉士の資格化されるまで)と現在の活躍場所とその内容を学ぶ。 ・精神障害者とマイクロ・メゾ・マクロの関係性を学び「生きづらさ」とは何かを知る。そのうえで精神保健福祉士の専門性をもとにエンパワメントの理解を深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、3に関連し、カリキュラムポリシーの2、4に関連している。									
到達 目標	1. 精神医療福祉の歴史と動向と精神保健福祉士における活動の歴史を説明できる。 2. 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。 3. 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。 4. 精神医療、精神保健福祉における多職種連携・多機関連携の方法について理解する。									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	オリエンテーション 精神保健福祉士における活動の歴史		精神保健福祉に関する海外と日本の動向を踏まえ、自立生活支援と精神保健福祉士の流れについて学ぶ。					講義		
第2回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要①		ソーシャルワークの構成要素、原理、理念、視点、知識、技術					講義		
第3回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要②		ソーシャルワークの展開過程					講義		
第4回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要③		精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点					ディスカッション、PBL		
第5回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程①		1アウトリーチ: 支援を求める、求めない当事者及び家族へのアプローチ、多問題・社会的孤立とセルフネグレクトへのアプローチ					ディスカッション、PBL		
第6回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程②		2インテーク: 主訴の把握、スクリーニング、契約					ディスカッション、PBL		
第7回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程③		3アセスメント: 情報から情報分析・解釈、人と環境の相互作用から捉えた問題の特性等					ディスカッション、PBL		
第8回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程④		4援助関係の形成技法					講義		
第9回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑤		5面接技術とその応用					講義、グループワーク、PBL		
第10回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑥		6支援の展開(人、環境へのアプローチ)事例分析					講義 グループワーク		
第11回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑦		7支援の展開(ケアマネジメント)					講義 グループワーク		
第12回	精神保健福祉分野における家族支援の実際①		1精神障害者家族の課題					講義、グループワーク、PBL		
第13回	精神保健福祉分野における家族支援の実際②		2家族理解の変遷					講義、グループワーク、PBL		
第14回	精神保健福祉分野における家族支援の実際③		3家族支援の方法					講義		
第15回	多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)①		連携の意義と目的					講義		
評価 方法 及び 評価 基準	定期テスト80%とレポート20%の割合で評価する。 ・定期テストは、到達目標の項目について客観的問題で評価する。 ・レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。									
課題等	精神障害者の人権に取り組んだDVDを視聴し、レポート作成やグループワークを行い学生が自ら考えて理解を深めること。									
事前事 後学修	・精神保健福祉に関する図書や新聞を読むこと。 ・この授業の準備学習時間の目安は、1日あたり60分以上である。									
教材 教科書 参考書	【教科書】最新 精神保健福祉士養成講座6「ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)」中央法規 ISBN978-4-8058-8257-3 【参考書】野崎和義 監修・ミネルヴァ書房編集部 編『ミネルヴァ社会福祉六法2023[令和5年版]』、2023 【参考書】いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！社会福祉士国試ナビ2024』、2023 7月発売予定									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神保健福祉援助技術各論B		科目コード	W32027	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング		W-PWPF3-10.			30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>・精神保健福祉における歴史的展開(精神保健福祉士の資格化されるまで)と現在の活躍場所とその内容を学ぶ。</p> <p>・精神障害者とミクロ・メゾ・マクロの関係性を学び「生きづらさ」とは何かを知る。そのうえで精神保健福祉士の専門性をもとにエンパワメントの理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、3に関連し、カリキュラムポリシーの2、4に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 精神医療、精神保健福祉における多職種連携・多機関連携の精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>2. 精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。</p> <p>3. 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。</p> <p>4. 精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	オリエンテーション、多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)①		2多職種連携・多機関連携の留意点					講義、PBL、ディスカッション		
第2回	オリエンテーション、多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)②		3チームビルディング					講義、PBL、ディスカッション		
第3回	オリエンテーション、多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)③		4チームの形態と特徴					講義、PBL、ディスカッション		
第4回	オリエンテーション、多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)④		5連携における精神保健福祉士の役割					講義、PBL、ディスカッション		
第5回	オリエンテーション、多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)⑤		6多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)の実際(事例分析)					講義、PBL、ディスカッション		
第6回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法①		1ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義					講義		
第7回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法②		2組織と精神保健福祉士の関係性					講義		
第8回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法③		3組織介入・組織改善の実践モデル					講義		
第9回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法④		4組織運営管理の実際					講義		
第10回	コミュニティワーク①		1精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義					講義		
第11回	コミュニティワーク②		2地域における精神保健福祉の向上					講義		
第12回	個別支援からソーシャルアクションへの展開①		1基本的視点 2個別支援から地域における体制整備					講義		
第13回	個別支援からソーシャルアクションへの展開②		3政策提言・政策展開					講義、PBL、ディスカッション		
第14回	個別支援からソーシャルアクションへの展開③		4精神障害者の地域移行・地域定着に関わる展開(事例分析)					講義、PBL、ディスカッション		
第15回	関連分野における精神保健福祉士の実践展開		1学校・教育分野 スクールソーシャルワーク 2産業分野 EAP、3司法分野、4その他					講義、PBL、ディスカッション		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>定期テスト80%とレポート20%で評価します。</p> <p>・定期テストは、到達目標の項目について客観的問題で評価します。</p> <p>・レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。</p>									
課題等	精神障害者の就労に関するDVDを視聴し、レポート作成やグループワークを行い学生が自ら考えて理解を深めること。									
事前事後学修	<p>・精神保健福祉に関する図書や新聞を読むこと。</p> <p>・この授業の準備学習時間の目安は、1日あたり60分以上である。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>【教科書】最新 精神保健福祉士養成講座6「ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)」中央法規 ISBN978-4-8058-8257-3</p> <p>【参考書】野崎和義 監修・ミネルヴァ書房編集部 編『ミネルヴァ社会福祉六法2023[令和5年版]』、2023</p> <p>【参考書】いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！社会福祉士国試ナビ2024』、2023 7月発売予定</p>									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神保健福祉演習Ⅱ		科目コード	W32030	単位数	4単位	対象	4年	開講	通年
	科目ナンバリング		W-PWPF3-12.	時間	60時間	学年				
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	丸山 龍太			授業	形態	演習	単独
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 精神保健福祉演習Ⅰを基礎とし、更なる技術向上を図る。精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養う。具体的な援助場面を想定した事例検討及びロールプレイ等を中心に授業を展開する。</p> <p>〔ディプロマポリシー（以下DP）及びカリキュラムポリシー（CP）との関連〕DP1、3 CP2、4に関連する。</p>									
到達目標	総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談事例を通して、自ら考え行動し解決できる能力を体得することを目標とする。									
授業計画										
回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	ソーシャルワークにおける事例の理解	事例を通してソーシャルワークを理解する重要性を理解する	グループワーク・ディスカッション	第16回	事例演習：地域における精神保健問題①	事例を通して地域が抱える問題の把握とそれに対処する為の方策を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第2回	ソーシャルワークのプロセス①	ソーシャルワークの流れを事例を通して理解する	グループワーク・ディスカッション	第17回	事例演習：地域における精神保健問題②	事例を通して地域が抱える問題の把握とそれに対処する為の方策を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第3回	ソーシャルワークのプロセス②	ソーシャルワークの流れを事例を通して理解する	グループワーク・ディスカッション	第18回	事例演習：地域における精神保健問題③	事例を通して地域が抱える問題の把握とそれに対処する為の方策を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第4回	事例演習：当事者とその生活①	事例を通して当事者の生活を理解する	グループワーク・ディスカッション	第19回	事例演習：地域における精神保健問題④	事例を通して地域が抱える問題の把握とそれに対処する為の方策を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第5回	事例演習：当事者とその生活②	事例を通して当事者の生活を理解する	グループワーク・ディスカッション	第20回	事例演習：家族と学校①	事例を通して家族と学校との関係性の中で行われる支援の方法を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第6回	事例演習：医療機関から地域生活へ①	事例を通して医療から地域へ移行する為の流れを理解する	グループワーク・ディスカッション	第21回	事例演習：家族と学校②	事例を通して家族と学校との関係性の中で行われる支援の方法を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第7回	事例演習：医療機関から地域生活へ②	事例を通して医療から地域へ移行する為の流れを理解する	グループワーク・ディスカッション	第22回	事例演習：家族と学校③	事例を通して家族と学校との関係性の中で行われる支援の方法を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第8回	事例演習：医療機関から地域生活へ③	事例を通して医療から地域へ移行する為の流れを理解する	グループワーク・ディスカッション	第23回	事例演習：地域援助事例①	事例を通して課題解決の為、地域への働きかけの方法や重要性を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第9回	事例演習：地域生活への支援体制①	事例を通して地域生活を推進する為のプロセス、資源の開発法等を理解する	グループワーク・ディスカッション	第24回	事例演習：地域援助事例②	事例を通して課題解決の為、地域への働きかけの方法や重要性を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第10回	事例演習：地域生活への支援体制②	事例を通して地域生活を推進する為のプロセス、資源の開発法等を理解する	グループワーク・ディスカッション	第25回	スーパービジョン①	プロがプロを支援するスーパービジョンの具体的なアプローチの方法を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第11回	事例演習：地域生活への支援体制③	事例を通して地域生活を推進する為のプロセス、資源の開発法等を理解する	グループワーク・ディスカッション	第26回	スーパービジョン②	プロがプロを支援するスーパービジョンの具体的なアプローチの方法を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第12回	事例演習：地域生活への支援体制④	事例を通して地域生活を推進する為のプロセス、資源の開発法等を理解する	グループワーク・ディスカッション	第27回	スーパービジョン③	プロがプロを支援するスーパービジョンの具体的なアプローチの方法を理解する	グループワーク・ディスカッション			
第13回	事例演習：精神科リハビリテーション①	事例を通して、精神科リハビリテーションの一端を学ぶ	グループワーク・ディスカッション	第28回	実習をもとにした振り返り①	精神保健福祉実習での経験をもとにこれまでの演習内容の振り返りを行う	グループワーク・ディスカッション			
第14回	事例演習：精神科リハビリテーション②	事例を通して、精神科リハビリテーションの一端を学ぶ	グループワーク・ディスカッション	第29回	実習をもとにした振り返り②	精神保健福祉実習での経験をもとにこれまでの演習内容の振り返りを行う	グループワーク・ディスカッション			
第15回	事例演習：精神科リハビリテーション③	事例を通して、精神科リハビリテーションの一端を学ぶ	グループワーク・ディスカッション	第30回	まとめ	1年間の総まとめを行う	グループワーク・ディスカッション			
評価方法及び評価基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。授業への参加度（100%）で評価する。グループワークを通して、事例演習に応じた支援案等を立案、支援案に対する検討、それらを踏まえた上でのロールプレイ、振り返り及び再検討を繰り返すので、積極的な発言、考察が必要である。									
課題等	演習担当者は、演習作成、演習実施の準備を進める。TEAMS上で作成された演習内容を確認し、各自事前学習を行う。それぞれ、1回の演習につき予習・復習の合計は180分程度必要となる。									
事前事後学修	演習担当者は、演習問題の作成、当日の演習実施、振り返り等をすべて取り仕切る。担当者には、予め演習問題を期日までにTEAMSにアップロードすることを課す。アップロードがなければ、受講生が作業で演習が成立しないので、注意すること。演習が成立しない場合、授業への参加度に関して検討を行うこととなる。									
教材教科書参考書	坂野憲司編『精神保健福祉援助演習（専門）第3版』弘文堂、2020年（ISBN978-4-335-61124-7）									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。ソーシャルワーク関係の知識・技術は、関連科目で習得済であることを前提として授業展開を行うので、不足する部分は予め補っておくこと。積極的な発言、考察を求めるが、他者への配慮を忘れずに、節度ある取り組みに注意すること。									

科目名	児童福祉論B		科目コード	W33002	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-02.	時間	30時間	学年			
区分	社会福祉専門教育科目	選択必修	担当者名	柘植 秀通			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>[授業の主旨] 子ども家庭福祉の現状をはじめ、歴史・施策などについて学ぶ。基本的には、講義であるが、随時演習を交える。特に、国家試験模擬問題をグループに分かれ、解いていく。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2と4に関連する。</p>									
到達目標	子ども家庭福祉の現在までの発展の経緯、諸施策、制度の在り方について、基本的な理解を得る。特に、これらに関する国家試験について、正解を導き出すことはできなくとも、大体の内容について理解をし、問題に迎えるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	後期オリエンテーション&子どもの貧困防止		現代における子どもの貧困の状況とその防止の諸施策について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること)					講義		
第2回	母子保健		母子保健とは何か、特にその歴史現状、今後の課題について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)					講義・グループワーク		
第3回	障害・難病のある子どもと家族への支援		障害・難病のある子どもと家族の現状とニーズ、その支援に関する制度・知識を学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)					講義・グループワーク		
第4回	児童健全育成		児童健全育成とは何か、またどのような事業があるかについて学ぶ。また、今後のあり方について考察する。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)					講義・グループワーク		
第5回	保育①		保育制度の流れと、制度の概要②と待機児童問題、少子化問題等について、また保育士資格について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること)					講義		
第6回	保育②		地域子育て支援とは何か。その歴史から現状について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること)					講義		
第7回	地域子育て支援		母子家庭・父子家庭などのひとり親家庭について、その現状と支援のあり方について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)					講義		
第8回	ひとり親家庭の福祉		社会的養護とは何か、また、現在にいたる児童養護の考え方に、諸施策・諸機関①について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)					講義		
第9回	社会的養護		社会的養護の諸施策・諸機関等②と今後の動向について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)					講義		
第10回	非行児童・情緒障害児への支援		非行とは何か、情緒障害とは何か、また、それぞれの特に家族まで含めた支援のあり方について学ぶ。特に、基本となる児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)					講義		
第11回	児童虐待対策		児童虐待とは何か、またその実態、虐待を予防するためのシステム、課題について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)					講義		
第12回	子どもと家庭にかかわる女性福祉		女性福祉、特に戦前からの婦人保護事業以来の歴史的経緯、DVおよびDV防止法について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)					講義		
第13回	子ども家庭福祉と相談援助活動		現在まだまだ遅れている、家庭にいる子どもたちへの相談支援、特に複雑な問題を抱えた虐待ケースや多問題家族の子どもたちへの相談支援について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)					講義		
第14回	施設ケアと子ども家庭福祉援助活動		今後の施設ケアのあり方、またあるべき姿について学ぶ、と共に考察する。(テキストを予め読んで来ること)					講義		
第15回	地域援助活動とネットワーク		子ども家庭福祉における地域のあり方、特にネットワーキングについて学ぶ、と共にこれまでのまとめ(テキストを予め読んで来ること)					講義・グループワーク		
評価方法及び評価基準	参加度20%、期末のテストでの成績80%で評価を行う。期末のテストは、国家試験と同じ形式を取った試験を行う。参加度については、毎回の授業において、発言を行った回数(いかなる内容でも構わない)、演習形式で行った場合の姿勢等を観察して行う。									
課題等	課題は随時提供し、次回までに行ってくる。									
事前事後学修	次回の学習内容について、学んでおき、様々な質問に答えられるようにしておく。1時間程度の事前学習を勧める。									
教材教科書参考書	(教科書)最新 社会福祉士養成講座3『児童・家庭福祉』 中央法規 2021年発行 978-4-8058-8246-7									
留意点	授業において、積極的に意見を述べてほしい。いかなる意見・質問であっても、評価するので、こうした積極性を基本としてほしい。									

科目名	障害者福祉論B		科目コード	W33004	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-05.		30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	鳴海 春輝			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。障害者福祉の歴史と障害者親の変遷、制度の発展過程について理解する。障害者に対する法制度と支援の仕組みの基礎的部分を理解する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1及びカリキュラムポリシーの1、2に関連する									
到達 目標	障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解することができる。障害者福祉の歴史と障害者親の変遷、制度の発展過程について理解することができる。障害者に対する法制度と支援の仕組みの基礎的部分を理解することができる。障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切なあり方を理解することができる。多職種専門職と連携して障害者の基本的な相談支援に対応できる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション			障害者福祉論Aの復習、授業の進め方						
第2回	障害者の福祉と労働①			働くことの意味、障害者の就労実態						
第3回	障害者の福祉と労働②			労働保障の制度（障害者雇用促進法等）、障害者の権利条約						
第4回	障害者の所得保障①			障害者の低所得性、障害基礎年金、社会手当						
第5回	障害者の所得保障②			労災制度、生活保護制度、負担軽減措置						
第6回	障害者の社会生活参加①			障害者の社会参加の実態、世論の障害理解の実態						
第7回	障害者の社会生活参加②			バリアフリー環境の整備						
第8回	障害児の福祉サービス①			子どもの権利条約、障害者権利条約						
第9回	障害児の福祉サービス②			母子保健法、児童福祉法の改正						
第10回	障害福祉の整備計画と障害者運動①			障害者権利条約と国の責務の縮小						
第11回	障害福祉の整備計画と障害者運動②			国・地方公共団体の役割、障害者福祉計画と障害者参加						
第12回	障害者福祉現場で働く職員①			職員配置基準、相談支援専門員						
第13回	障害福祉現場で働く職員②			サービス管理責任者、サービス提供責任者、国家資格						
第14回	障害者相談支援の臨床事例①			知的障害者の地域生活における事例、身体障害者の事例に学ぶ						
第15回	障害者相談支援の臨床事例②			精神障害者の長期入院の事例、てんかんで失職後就労した事例に学ぶ						
評価 方法 及び 評価 基準	レポート30%、定期試験70%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点からレポート提出も求める。									
課題等	レポートは、第8回目の授業の際、課題を複数題提示し、その中から1つ選択しレポートを作成する。第11回目の授業時間に提出する。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書：新・社会福祉士シリーズ『障害者福祉』弘文堂の第6章から第12章を講義。ISBN 978-4-335-61219-0 参考書：NHKラジオ第2放送「社会福祉セミナー」放送及びテキスト									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	老人福祉論B		科目コード	W33006	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング		W-PWBF2-08.	30時間						
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	中村 直樹			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 本講義では、介護保険制度と高齢者支援の方法について学習する。とくに、介護保険制度について学習する中では、制度創設の沿革や目的、基本的な仕組み、運用等について具体的事例を紹介しながら授業を展開する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1、2に関連している。</p>									
到達目標	<p>(1) 介護保険制度の仕組みや介護保険サービス体系を中心に高齢者支援に関する基礎について理解する。 (2) 高齢者を支える制度・政策を学習する中において、支援の実際を具体的にイメージしながら考えることができるようになる。 (3) 高齢者の生活実態やニーズに対する社会的支援策を理解し、援助に関する基本的視点を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	介護保険制度の基本的枠組み		介護保険制度の全体像							
第2回			介護保険制度の目的と理念							
第3回			保険財政						(教科書第5章を予習・復習する)	
第4回			保険者と被保険者							
第5回			介護保険制度の最近の動向							
第6回	介護保険制度の仕組み		要介護認定の仕組みとプロセス							
第7回			保険給付							
第8回			介護報酬						(教科書第6章を予習・復習する)	
第9回			地域支援事業							
第10回			介護保険事業計画							
第11回	介護保険サービスの体系		介護保険サービスにおける専門職の役割と実際						グループワーク	
第12回			介護保険サービスの種類						(教科書第7章を予習・復習する) グループワーク	
第13回	高齢者を支援する組織と役割		地域包括支援センターの組織体系と役割(教科書第8章を予習・復習する)						プレゼンテーション	
第14回	高齢者支援の方法と実際		相談援助とケアマネジメント (教科書第9章を予習・復習する)							
第15回	高齢者を支援する専門職の役割と実際		専門職による協働と多職種連携 (教科書第10章を予習・復習する)							
評価方法及び評価基準	<p>・①期末試験(70%)、②授業内課題(30%)で、総合的に評価する。総合して60%以上の者に対し単位を認定する。 ・期末試験は、到達目標をもとに、高齢者を支援する法制度や仕組み等についての基本的概念や語句等の理解が正しくできているかについて評価する。 ・授業内課題は、毎回の授業終了時にリアクションペーパーの記入・提出により評価する。</p>									
課題等	特になし									
事前事後学修	講義にて指示する									
教材教科書参考書	<p>(教科書) 新・社会福祉士養成講座 13『高齢者に対する支援と介護保険制度(第6版)』 中央法規出版 ISBN:978-4805858073 (参考書) いたう総研資格取得支援センター 編『見て覚える!社会福祉士国試ナビ』 中央法規出版 ISBN:978-4805883174</p>									
留意点	<p>・保健・医療・福祉に関連する事件やニュースについて関心を払い、毎回、1件以上の事件やニュースについて具体的に発表・記述できるようにしておくこと。 ・期末試験は、学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するように心がけること。</p>									

科目名	公的扶助論B		科目コード	W33008	単位数	2単位	対象	3年	開講	後期
	科目ナンバリング		W-PWBF2-11.	時間	30時間	学年				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	丸山 龍太			授業	形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 公的扶助(生活保護)は公的責任に基づき、租税を財源として貧困者に対して行われる所得保障の制度である。社会保険とならび社会保障の主要部門を構成している。貧困の拡大が社会問題となる現在、セーフティネットとして位置付けられる公的扶助は、改めてその現代的意義が問われている。</p> <p>公的扶助論Bでは、公的扶助論Aで学んだ基礎を踏まえ、生活保護行政が抱える種々の課題に関し、より深く取り上げることとする。わが国の公的扶助制度が、権利保障の完全なる確立にまで昇華する為の課題を共に考えることとする。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕DP1, 3 CP2, 4に関連する。</p>									
到達目標	<p>到達目標は、以下の3点である。</p> <p>①わが国の公的扶助制度が抱える問題点とは何かを他者に説明することが出来る。</p> <p>②公的扶助を権利保障の制度へと更に昇華させる為の具体的な対策等を提示できる。</p> <p>③公的扶助に悪影響を与え続けているスティグマの除去の為、私たちは何が出来るかを考え行動することが出来る。</p>									
授業計画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	公的扶助の課題の整理		公的扶助が抱える数々の課題に関し理解する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う						講義	
第2回	公的扶助制度の諸課題①(生活保護法)		生活保護法が抱える課題を法誕生の経緯から整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う						講義	
第3回	公的扶助制度の諸課題②(生活保護法)		生活保護法が抱える課題を法誕生の経緯から整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う						講義	
第4回	公的扶助制度の諸課題③(福祉事務所)		生活保護を運用する福祉事務所が抱える課題点を多角的に整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う						講義	
第5回	公的扶助制度の諸課題④(福祉事務所)		生活保護を運用する福祉事務所が抱える課題点を多角的に整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う						講義	
第6回	公的扶助制度の諸課題⑤(国)		生活保護法が抱える課題を国の動向から整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う						講義	
第7回	公的扶助制度の諸課題⑥(民)		スティグマの理解を踏まえた上で、生活保護法と民との関係性と課題を整理する。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う						講義 9回目以降のグループ編成	
第8回	公的扶助制度の諸課題⑦(民間団体)		貧困に抗する活動を続ける民間団体に関する理解を深める。Wi-Fiに接続し、調べながらThink pair shareを行う						講義	
第9回	グループ発表会準備①		これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。						グループワーク	
第10回	グループ発表会準備②		これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。						グループワーク	
第11回	グループ発表会準備③		これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。						グループワーク	
第12回	グループ発表会準備④		これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。						グループワーク	
第13回	グループ発表会①		これまでにまとめた課題等をグループごとに発表し、クラス内で意見交換を行う						プレゼンテーション	
第14回	グループ発表会②		これまでにまとめた課題等をグループごとに発表し、クラス内で意見交換を行う						プレゼンテーション	
第15回	グループ発表会③		これまでにまとめた課題等をグループごとに発表し、クラス内で意見交換を行う						プレゼンテーション	
評価方法及び評価基準	<p>出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。授業への参加度20%、グループ発表会での参加度30%、試験50%で評価する。試験は、ある事例を用いて課題解決に向けたプラン作成を求めるものとし、能動的に知識獲得及び活用が図られているかを問う。グループ発表会では、グループに分かれ公的扶助制度を前進させる為の課題とそれに関する解決策を作り上げクラス内で発表し、意見交換を行う。その際の取り組み状況、発表会への参加度等を評価の対象とする。参加度は、毎回協同学習の1つである「Think-Pair-Share」を実施する中で、その活動への関わり方等を踏まえ評価を行う。</p>									
課題等	<p>レポート課題及び試験はTEAMS上で提示するので、TEAMSにより提出する。レポート課題及び試験を通じて授業への理解度を図ると同時に復習の時間とする。復習は1回の授業につき90分程度の時間を要する内容とする。</p>									
事前事後学修	<p>毎回、次週の授業に必要な事柄を予習するよう具体的に指示する。予習は1回の授業につき90分程度の内容とする。この予習は授業内のThink-Pair-Shareを行う為に必須となる。</p>									
教材教科書参考書	<p>伊藤秀一編著『貧困に対する支援』弘文堂、2022年 (ISBN 978-4-335-61221-3)</p>									
留意点	<p>9回目以降予定しているグループ発表会のいずれかの回でも遅刻・欠席した場合、原則として30%分の減点として対応するので、注意すること。</p>									

科目名	社会福祉行政論		科目コード	W33029	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-16.		30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会福祉行政、これに関わる行政組織・民間組織・専門職との関係を分析し、問題点を考察します。社会福祉行政論には、部分的ではあるが、政治の知識がある程度あったほうがよい。政治学A・Bをまだ取っていない学生は、できれば履修してほしい。これからも医療福祉関連の予算は膨らんでいきます。こうした中でも、本学部のポリシーである福祉実践者は「人づくり」や活発なボランティア活動がなぜ必要なのかについても学んでいきます。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 こうした中でも、本学部のポリシーである福祉実践者は「人づくり」や活発なボランティア活動がなぜ必要なのかについても学んでいきます。									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉行政を国家論および官僚制論から見ていくことができますようにします。 ・スペシャリスト、エキスパート、「専門職」、専門職の関係を理解し、自らの指針に磨きをかけます。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	講義の概要と展開			本講義の概要、展開、そして試験等について説明。						
第2回	福祉国家と行政国家と「大きな政府」の違いと共通点			福祉国家とは、福祉行政や関連する行政が増大した国家、行政国家とは3権の中で、行政部門が肥大した国家、「大きな政府」とは、あらゆる行政が肥大した国家です。共通点はいずれも行政費用の増大をまねきます。						
第3回	日本の福祉行政の歴史的展開と今後			戦後から1990年代までの福祉行政と2000年代からの福祉行政では、その理念や具体的政策が大きく変わった。						
第4回	社会福祉行政と地方公共団体			変わった点は、地方自治体の役割が非常に大きくなりました。措置から契約へとほぼ政策理念が変わり、多くの社会福祉法人や民間企業が社会福祉事業に関わることになりました。						
第5回	介護保険制度と行政			社会福祉政策の中でも大きく変わったのが高齢社会に対応した介護保険制度が取り入れられたことです。						
第6回	社会福祉事業と事業者に対する指揮監督			政策に契約理念が採用されたため、たくさんの高齢者施設やサービス事業が社会福祉法人や民間企業によってできました。契約どおりにサービス提供ができない場合、行政の指揮監督がなされることも。						
第7回	社会福祉の費用と財源			社会福祉の費用と財源は、基本的には国の税金と国民の介護保険料等で賄われます。その他には、寄付金などがあります。						
第8回	ガバナンスと制度改革			数年前の制度改革は、組織のガバナンスを強化する方向性が打ち出された。このガバナンスの理解と制度改革の方向性を考える。						
第9回	制度改革 1			改正前と改正後の比較から考える。						
第10回	制度改革 2			その2						
第11回	社会福祉の専門諸機関			社会福祉の専門諸機関を行政組織として分析し考える。						
第12回	相談過程と地域の相談システム			2000年以降の発展過程を中心に考える。						
第13回	専門職の専門性			専門職の専門性について、行政統制（行政責任）論と専門性の2方向性から考える。						
第14回	社会福祉専門職			前回の専門職論から考察すると、社会福祉の各専門職は、どのように分類可能かを考える。						
第15回	まとめと試験			講義全体のまとめと試験						
評価 方法 及び 評価 基準	試験とその前提としての出席。試験の点数は、2回までの欠席が減点なし、3－5回が1回につき5点減点。									
課題等	社会福祉行政が現実の政治（議会）と行政と常に絡んでいる部分を講義の中で一緒に探っていきましょう。									
事前事後学修	・講義の前日は、福祉に関する記事の一つ、新聞かネットニュースで読んでください。講義終了日は、レジュメをさっと読み返し、印刷した新聞記事を一丁寧に読んでください。									
教材 教科書 参考書	・教科書：池村正道編集『福祉行政と福祉計画』（社会福祉士シリーズ10）弘文堂、2020年（第4版）ISBN:978-4335612053									
留意点	第1回目を欠席する学生は事前に連絡をして下さい。									

科目名	福祉計画論		科目コード	W33030	単位数	2単位	対象	3年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-17.	時間	30時間	学年			
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・官僚制の下で、計画が精緻化されていくことの意義と機能を説明し、計画の長所と短所を考えます。100年以上前にドイツのM.ウェーバーは、未来の人間のほとんどの活動は組織により動かされていくと著書の中で述べました。だからこそ、私たちは、組織の中で、計画活動が活発になると、そのプラス面とマイナス面を知る必要があります。 <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>本学部のポリシーである福祉実践者は「人づくり」や、活発なボランティア活動は将来の地域づくりにとって当たり前になることを願って講義を進めます。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・官僚制と計画の関係を理解して、福祉計画について分析できるようにします。 ・行政責任（行政統制）論を理解して、福祉計画の評価と監査の違いを理解できるようにします。 									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	講義の概要説明		講義の概要、計画、試験等について説明します。							
第2回	計画とは何か		計画の基本的理解と我が国戦後の国家的計画の歴史							
第3回	行政計画と福祉計画		行政福祉計画と社会福祉法人等の福祉計画の理解							
第4回	福祉計画の策定過程とその方法		PDCAサイクルの基礎的理解とその策定方法の理解							
第5回	具体的な福祉計画		様々な具体的な活動をどのように福祉活動として計画に取り入れていくのかを考察							
第6回	評価と監査の違いとアカウンタビリティ		アカウンタビリティの分析により、評価と監査の違いと人間の自発性を考える。							
第7回	福祉計画の評価方法		福祉計画の評価方法と評価と監査の違い							
第8回	福祉計画におけるニーズとは		福祉計画におけるニーズを類型化して考える。							
第9回	ボランティア（NPO）と福祉計画		ボランティアについて分析し、これを福祉計画にどのように絡めるのかを考える。							
第10回	地域の伝統文化と福祉計画		地域の伝統文化には、地域の多くの住民が長年親しんできている。そうした文化をどのように福祉や福祉計画に絡めるかについて考える。							
第11回	住民参加と福祉計画		地域住民が福祉や福祉計画について考える意義について解説する。							
第12回	クライアントの自発性と福祉計画		福祉の業務やボランティアに関わる人々が、クライアントはなんにもできないなどと思っはいけない。クライアントは特技を持っている場合が多いのです。その自発性の尊重と福祉や福祉計画を考える。							
第13回	スペシャリスト・ジェネラリストと福祉計画		集団や組織には、スペシャリストとジェネラリストの能力が不可欠である。あるいは、双方の能力を持つ人々がいてもいい。福祉計画を策定していく際に、これをいかす考え方を探る。							
第14回	ケアの理念と福祉計画		福祉に携わるあらゆる専門職や一般の人々のケアの理念について考える。							
第15回	まとめと試験		福祉計画論のまとめと試験							
評価方法及び評価基準	試験（文章の構成と論理性を中心に評価）と出席。試験の結果は、2回までの欠席が減点なし、3-5回の欠席は5点ずつ減点。2014年度以前の入学生は、試験を含む出席回数が8回です。この場合、試験の結果は、1回までの欠席が減点なし、2回の欠席が5点減点。講義の前日は、福祉に関する記事の一つ、新聞かネットニュースで読んでください。講義終了日は、レジュメをしっかりと読み返し、印刷した新聞記事の一つ丁寧に読んでください。									
課題等	これまで経験してきた学校、学級、部活動、サークルなどをときどき振り返ってみてください。									
事前事後学修	・講義の前日は、福祉に関する記事の一つ、新聞かネットニュースで読んでください。講義終了日は、レジュメをしっかりと読み返し、印刷した新聞記事の一つ丁寧に読んでください。									
教材教科書参考書	・「社会福祉行政論」の教科書と同じ。									
留意点	2015（平成27）年度以前の入学生は後期「福祉計画論」と前期「社会福祉行政論」の講義を第7回まで出席してください。試験は3年生と同じ15回目となります。									

科目名	医療ソーシャルワーク論		科目コード	W32006	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-19.		30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	駒ヶ嶺 裕子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>保健医療関連の制度とサービス、医療ソーシャルワーカーの役割と関連職種の間わり、在宅医療・介護における本人(患者)と家族の関係性における支援方法を学生が主体的に学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、3に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 医療ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。</p> <p>2. 保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。</p> <p>3. 保健医療領域における医療ソーシャルワーカーの役割と、連携や協働について理解する。</p> <p>4. 保健医療に課題を持つ人に直接的、間接的な医療ソーシャルワーカーの支援方法を理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	オリエンテーション 医療ソーシャルワーカーの意義		授業概要の説明、わが国の少子高齢化の現状と問題点 疾病構造の変化・感染症の減少・生活習慣病の増加						講義	
第2回	医療施設から在宅医療		・社会的入院 ・在宅医療の役割と課題						講義	
第3回	保健医療における福祉的課題①		依存症、認知症、自殺企図、虐待防止①						講義	
第4回	保健医療における福祉的課題②		依存症、認知症、自殺企図、虐待防止②						プレゼンテーション	
第5回	医療施設の概要		・病院(特定機能病院、地域医療支援病院等)、診療所 ・病院や病床の機能分化						講義	
第6回	保健医療領域における専門職		医師、歯科医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、介護福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員、居宅介護従事者等						プレゼンテーション	
第7回	保健医療領域における社会福祉士の役割		医療ソーシャルワーカーの業務指針						講義	
第8回	保健医療に係る倫理		・自己決定権の尊重 ・医療倫理の6原則						講義	
第9回	保健医療に係る倫理		・保健医療にかかわる倫理的課題 ・高度生殖医療、出生前診断、脳死と臓器移植、尊厳死、身体抑制						講義	
第10回	保健医療領域における支援の実際①		・疾病及びそのリスクがある人の理解 ・入院中・退院時の支援、在宅医療における支援						ディスカッション	
第11回	保健医療領域における支援の実際②		・救急・災害現場における支援 ・終末期ケア及び認知症ケアにおける本人、家族支援						ディスカッション	
第12回	保健医療対策の概要		・保健所の役割、地域医療の指針(医療計画) ・5疾病、5事業、薬剤耐性(AMR)対策						講義	
第13回	医療保険制度の概要①		・無料低額診療事業 ・労災保険、傷病手当金、特定疾患医療費助成制度						講義	
第14回	医療保険制度の概要②		診療報酬制度の体系						講義	
第15回	まとめ		医療ソーシャルワークの実践事例						講義	
評価 方法 及び 評価 基準	<p>テスト80%とレポート20%の割合で評価する。</p> <p>・テストは、到達目標の項目について客観的問題で評価する。</p> <p>・レポート課題は、その講義内容を踏まえて論理的に記述しているか、理解の程度等を評価する。</p>									
課題等	終末期ケアのDVDを視聴し、レポート作成後に次の講義でフィードバックし理解を深める。									
事前事 後学修	<p>・医療、保健に関係する図書や新聞を読むこと。</p> <p>・この授業の準備学習時間の目安は、1日あたり60分以上である。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>【教科書】日本医療ソーシャルワーク研究会「医療福祉総合ガイドブック〈2023年度版〉」医学書院</p> <p>【参考書】野崎和義 監修・ミネルヴァ書房編集部 編『ミネルヴァ社会福祉六法2023〔令和5年版〕』、2023</p> <p>【参考書】いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！社会福祉士国試ナビ2024』、2023 7月発売予定</p>									
留意点	この授業は、医療ソーシャルワーカーを目指す学生、または保健医療関係の興味ある学生の履修が望ましい。									

科目名	更生保護論		科目コード	W33014	単位数	2単位	対象	3年	開講	前期
	科目ナンバリング	W-PWBF2-20.	時間	30時間	学年					
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 選択必修	担当者名	平野 潔			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 更生保護制度の沿革、仕組み、他の各制度との違いを理解した上で、あるべき犯罪者・非行少年の自立支援のあり方について考えます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 更生保護が身近な問題であり、国民一人一人が考えたり取り組んだりしなければならない問題であることを実感できる。 更生保護制度の仕組みや手続きを、そのような仕組みや手続きが準備されている理由を含めて理解する。 犯罪や非行からの立ち直りに関して、現在どのような問題が起きており、それに対してどのような対策が採られているかを把握する。 更生保護が抱える問題点を理解した上で、更生保護のあるべき姿について自分なりの考えを持つことが出来る。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	更生保護の全体像		更生保護の意味を説明した上で、架空事例を用いながら更生保護がどのような活動なのかを概説する。							
第2回	刑事司法のなかの更生保護		成人および少年の刑事事件の手続きの流れを概説した上で、刑事司法のなかで更生保護はどの段階に位置付けられるかを確認する。							
第3回	更生保護の基本原則		更生保護の目的、内容などを概説した上で、更生保護の基本原則について説明する。							
第4回	仮釈放①		仮釈放制度の意義や手続きを説明した上で、とくに成人に対する仮釈放について、その趣旨などを解説する。							
第5回	仮釈放②・生活環境の調整		仮釈放のうち、少年に対する仮釈放について解説する。また、生活環境の調整の意義や内容について説明する。							
第6回	保護観察制度の概要①		保護観察の基本的な内容を解説した上で、主として少年の保護観察について、その種類や手続き等を説明する。							
第7回	保護観察制度の概要②		保護観察のうち、成人を対象とする保護観察の種類・手続き等について解説をする。							
第8回	更生緊急保護		更生保護において、更生緊急保護がどのように位置づけられるか解説する。また、その手続きや類似制度との違いについても説明する。							
第9回	恩赦		恩赦について、内容・手続き・現状について説明をする。とくにその機能については詳しく取り上げる。							
第10回	更生保護の担い手①		保護観察の中核を担う保護観察官と保護司について、その職務内容を説明する。							
第11回	更生保護の担い手②		更生保護施設がどのような役割を担っているかを、そこで実施されている処遇内容を踏まえて解説する。							
第12回	更生保護の担い手③		民間協力者である更生保護女性会、BBS会、協力雇用主の活動内容を中心に、それぞれが担う役割を説明する。							
第13回	医療観察制度①		医療観察法が成立する前にどのような問題が生じていたのかを分析した上で、医療観察法成立の背景を説明する。							
第14回	医療観察制度②		医療観察法の手続きやしくみを紹介した上で、それがどのような意図のもとに作られたのかを解説する。							
第15回	更生保護の近時の動向と今後の課題		これまでの講義内容から現在の更生保護の問題点を抽出し、その解決策として近時提示されている新たな取り組み・課題を紹介する。							
評価方法及び評価基準	<p>平常評価 30% (授業の感想記入、質問等への回答、授業中の受講態度、授業の要約(「授業のまとめ」)等を総合して平常評価とします。ただ 授業に出ているだけでは、点数はつきませんので注意して下さい。)</p> <p>定期試験 70% (授業内容から「論述問題」を中心に出題します。試験の際には、授業中に配布した資料と自筆ノートのみ持ち込みを認めます。採点のポイントは、授業で扱った用語、制度の趣旨、手続きなどを理解した上で、それを相手に伝えるような形で表現できているか、自分なりの考えを表現できているかという点になります。)</p>									
課題等	授業終了時に感想や質問を記入してもらいます。それについては、次回の授業時にコメントをします。また、「授業のまとめ」に関しては、次回の授業時に回収してチェックをし、理解が不十分と思われる点については、次々回の授業時に解説をします。									
事前事後学修	毎回授業終了時に次回の学習範囲とポイントを示しますので、事前に本などを読んで調べておいてください。事前学修としては1時間程度が必要です。事後学修として、授業内容を復習した上で「授業のまとめ」をやってきてもらいます。事後学修としては2時間程度が必要です。									
教材教科書参考書	とくに指定しません。授業時に資料を配布し、それに従って授業を進めます。参考書等は開講時に紹介します。									
留意点	毎回の授業終了時にはコメント記入を求められますし、次回までにやってくる課題(「授業のまとめ」)が出されます。コメントや課題の内容によっては点数がつかないこともあります。授業そのものに関しても、ただ授業に来ているだけで居眠りをしたり内職をしたりしている場合には平常評価にはカウントされません。本講義に関しては、授業中ただ座って話を聞いているだけでは意味がありません。つねに何が問題となっているのか、それを解決するためにはどのようにすればいいのか、ということを考えながら授業を受けてください。また、授業中は受講生の皆さんに条文を読んでもらったりしますので、そのつもりで緊張感をもって授業に臨んでください。									

科目名	社会福祉経営論		科目コード	W33015	単位数	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-21.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	選択 必修	担当者名	保田 宗良			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 社会福祉法人の経営を多角的に学習します。人材の育成、人材マネジメントに力点を置きます。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1及びカリキュラムポリシーの2、4に関連する。									
到達 目標	福祉サービスの経営を理解するための基礎知識を修得し、社会福祉法人の施設長、正規職員が修得すべき専門知識を学習します。福祉職以外の専門職と連携して、組織を設計する際の専門知識にも言及します。ひとつづくり、地域コミュニティづくりに力点を置き、人材育成、人材マネジメントの意義・進め方を正確に理解することを到達目標とします。									
授業計画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	福祉サービスの全体像		福祉サービスの概念を明確に示し、学習する範囲を定めます。他のサービス業との比較によりその概念を明確に示します。							
第2回	福祉サービスを提供する組織		福祉サービスを提供する組織を、社会福祉法人、特定非営利活動法人、医療法人、その他に分けて特徴を学習します。							
第3回	福祉サービスの沿革と概況		福祉サービスの歴史、社会福祉法人制度改革についての流れを把握します。							
第4回	組織間連携と促進		現在の福祉サービスは、組織間連携、多職種連携の形式が多くあります。チームで連携する方法を学習します。							
第5回	組織運営の基礎理論		組織論について学習し、福祉サービスの組織作りを考えます。課題を班ごとに議論します。							
第6回	集団力学の基礎理論		集団の意思決定、コンフリクト(葛藤)について事例に基づき考察します。							
第7回	リーダーシップの基礎理論		福祉サービスにおけるリーダーシップを具体的に検討します。							
第8回	経営体制		社会福祉法人で望ましい経営体制を学習します。							
第9回	コンプライアンスとガバナンス		社会福祉法人に求められるコンプライアンスとガバナンスを理解します。							
第10回	福祉サービスの経営管理		マーケティングとリスクマネジメントについての戦略事例を班ごとに議論しながら学習を進めます。							
第11回	情報管理		福祉サービスの情報、その管理と運用方法を把握します。							
第12回	会計管理と財務管理		社会福祉法人の財務管理、会計管理を学習し、財務諸表の見方を練習します。							
第13回	福祉人材マネジメント		人材の確保と採用、評価システムについて考察します。							
第14回	福祉人材の育成		キャリアパスを考慮した福祉人材の育成方法を検討します。							
第15回	半期のまとめ		半期の学習を整理し、論点を班ごとに議論し結論を発表します。						グループワーク	
評価 方法 及び 評価 基準	中間レポート(50点満点)＋学期末試験(50点満点)で評価します。両方とも教科書を精読し、講義で修得した知識を展開し、自分の意見を客観的に記述することが求められます。レポートはコメントを付して早めに採点を行い返却します。									
課題等	中間レポートの論題に対する理解度を確認し、必要があれば課題を出題します。									
事前 事後 学修	講義の最後に毎回、教科書の復習の範囲、予習の範囲を指示します。必要な学習時間を具体的に指示します。									
教材 教科書 参考書	【教科書】一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)「福祉サービスの組織と経営」中央法規 ISBN 978-4-8058-8244-3									
留意点	毎回出席し、知識を蓄積して下さい。不必要な欠席は避け、やむをえず欠席する場合は配付資料を後日渡しますが、自習で補足して頂きます。班ごとのグループワークで、同級生と議論を重ね論点を整理する練習を行います。グループワークの結果を提出して頂き、その内容を見て学生の理解度を確認します。									

科目名	精神保健福祉制度論A	科目コード	W33021	単位数	2単位	対象	3年	開講	前期	
		科目ナンバリング	W-PWBF2-22.	時間	30時間	学年				
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択	必修	担当者名	葛西 久志		授業	形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神保健福祉制度論Aでは、精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化について概説する。その中で、精神保健福祉士の歴史の変遷と精神保健福祉士法の改正内容と意義についても説明する。さらに、精神障害者がどのように処遇をされてきたのかを施策の面からも検証していく。また、障害者自立支援法の成立経緯から障害者総合支援法へ移行後の制度内容を概説する。前期後半には、アウトリーチ支援、自殺対策、認知症高齢者への支援対策、ひきこもり支援対策、発達障害者支援対策などについて概説する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達目標	<p>精神保健福祉法の成立までの経緯と意義について学ぶ。その中で、精神保健福祉士の歴史の変遷と精神保健福祉士法の改正内容と意義について詳しく学ぶ。さらに、精神障害者がどのように処遇をされてきたのかを施策の面からも検証しながら学ぶ。また、障害者自立支援法の成立経緯から障害者総合支援法へ移行後の制度内容を学び、制度活用など即実践できるよう身につける。前期後半には、アウトリーチ支援、自殺対策、認知症高齢者への支援対策、ひきこもり支援対策、発達障害者支援対策等々についても学び現場実習に活かせるようにする。</p>									
授業計画										
回	主 題	授業内容							備考	
第1回	精神保健福祉の歴史の変遷①	奈良朝時代、江戸時代、明治時代（精神病患者監護法）							視聴覚（スライド）使用	
第2回	精神保健福祉の歴史の変遷②	大正時代（精神病院法）、昭和30年～40年代（精神衛生法）							視聴覚（スライド）使用	
第3回	精神保健福祉の歴史の変遷③	昭和60年代（精神保健法）～平成時代（精神保健福祉法）							視聴覚（スライド）使用	
第4回	精神保健福祉士の歴史	精神科ソーシャルワーカーの誕生（アメリカ、日本など）							視聴覚（スライド）使用	
第5回	精神保健福祉士の専門性②	精神保健福祉士制度の成立、他							視聴覚（スライド）使用	
第6回	精神保健福祉士の専門性②	精神保健福祉士法の改正内容とその意義							視聴覚（スライド）使用	
第7回	精神障害への処遇の過去・現在・未来①	Y問題、宇都宮病院事件、社会的入院、他							視聴覚（スライド）使用	
第8回	精神障害への処遇の過去・現在・未来②	「保護者」廃止、退院後生活環境相談員の配置、他							視聴覚（スライド）使用	
第9回	精神障害への処遇の過去・現在・未来③	退院促進事業（地域移行支援）、アウトリーチ支援（地域定着支援）							視聴覚（スライド）使用	
第10回	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス①	福祉六法の成立、障害者基本法の成立、障害者自立支援法の成立							視聴覚（スライド）使用	
第11回	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス②	障害者総合支援法の改正、障害者福祉サービスの事業内容①							視聴覚（VTR）使用	
第12回	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス③	障害者福祉サービスの事業内容②、自立支援医療のしくみ							視聴覚（スライド）使用	
第13回	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス④	アウトリーチ支援、自殺対策、認知症高齢者への支援対策、ひきこもり支援対策、発達障害者支援対策							視聴覚（スライド）使用	
第14回	精神障害者に関する社会保障制度の概要①	医療保険制度、介護保険制度、							視聴覚（スライド）使用	
第15回	精神障害者に関する社会保障制度の概要②	生活保護制度、他							視聴覚（スライド）使用	
評価方法及び評価基準	<p>学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。定期試験（100%）で評価する。定期試験は、主に精神保健福祉の歴史の変遷（制度の変遷含む）や、障害者総合支援法などについてどの程度理解したか評価する。</p>									
課題等	<p>障害者総合支援法の制度の成立までの経緯や当初の制度のねらい、課題などについて、VTRなどを視聴しながら、今後の展望についてフィードバックする。</p>									
事前事後学修	<p>事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神保健医療福祉白書、障害者総合支援法のしくみ（全社協）などを調べ補足する。</p>									
教材教科書参考書	<p>新・精神保健福祉士養成講座第6巻 「精神保健福祉に関する制度とサービス」 第6版 中央法規出版（ISBN978-4-8058-5596-6）</p>									
留意点	<p>この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。</p>									

科目名	精神保健福祉制度論B		科目コード	W33022	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング		W-PWBF2-23.	時間	30時間					
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	葛西 久志			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神保健福祉制度論Bは、精神保健福祉士が精神障害者のおかれた状況や抱える問題理解していく上で、精神保健福祉法の理解は不可欠である。そこで、精神保健福祉法の目的および対象として、法律の目的、法律の対象、精神保健福祉センターなどの規定について概説する。また、心神喪失者等医療観察法や更生保護法から司法・医療・福祉の連携について説明する。さらには、精神保健福祉士の専門職性とその研究から学んだ社会調査(量的調査法、質的調査法)についても概説する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達 目標	<p>精神保健福祉士は、精神保健福祉法を活用して精神障害者の社会的復権の実現を図っていく必要がある。そこで、精神保健福祉法の運用の基本法律である精神保健福祉法について詳細に学び、いつでも活用できるよう身につけておく。また、近年改正された精神保健福祉法の中で、保護者制度の廃止、地域移行支援に向けた法整備など学ぶ。さらには、司法・医療・福祉の連携や、社会資源の調整・開発にかかわる社会調査の方法を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	精神保健福祉法の概要①		第1条：法の目的、第2条：国及び地方公共団体の義務、他					視聴覚（スライド）使用		
第2回	精神保健福祉法の概要②		第19条の7：都道府県立精神科病院、 第19条の8：指定病院、他					視聴覚（スライド）使用		
第3回	精神保健福祉法の概要③		第29条：措置入院、第30条：費用負担、他					小テスト①視聴覚（スライド）使用		
第4回	精神保健福祉法の概要④		第33条第1項：医療保護入院、第33条の7：応急入院、他					視聴覚（スライド）使用		
第5回	精神保健福祉法の概要⑤		第34条：医療保護入院のための移送制度、第45条：精神障害者 保健福祉手帳、他					小テスト②視聴覚（スライド）使用		
第6回	医療観察法の概要と実際①		医療観察法の目的等、医療観察法の合議制、他					小テスト③視聴覚（スライド）使用		
第7回	医療観察法の概要と実際②		医療観察法の流れ、医療観察法の抗告、他					視聴覚（スライド）使用		
第8回	医療観察法の概要と実際③		医療観察法の指定医療機関、医療観察法の精神保健観察					視聴覚（スライド）使用		
第9回	医療観察法の概要と実際④		医療観察法の抗告、医療観察法の実際					視聴覚（スライド）使用		
第10回	医療観察法の概要と実際⑤		保護観察所の業務、社会復帰調整官					小テスト④視聴覚（スライド）使用		
第11回	司法・医療・福祉の連携①		更生保護対象者の特徴、					視聴覚（スライド）使用		
第12回	司法・医療・福祉の連携②		司法・医療・福祉の連携の必要性と実際					視聴覚（スライド）使用		
第13回	司法・医療・福祉の連携③		更生保護に関する新たな施策、社会内処遇の今後					小テスト⑤視聴覚（スライド）使用		
第14回	社会資源の調整開発にかかわる社会調査①		精神保健福祉士の専門職性に関する研究（研究目的、研究方法など）					視聴覚（スライド）使用		
第15回	社会資源の調整開発にかかわる社会調査②		アンケート調査による量的調査方法、質的調査方法					視聴覚（スライド）使用		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。定期試験（100％）で評価する。定期試験は、主に精神保健福祉法、医療観察法、更生保護法などについてどの程度理解したか評価する。</p>									
課題等	<p>精神保健福祉法から医療観察法については、小テストを5回実施する。小テストの実施により、理解の深化を図る。</p>									
事前事 後学修	<p>事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神保健福祉法詳解、更生保護制度などを調べ補足する。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>新・精神保健福祉士養成講座第6巻 「精神保健福祉に関する制度とサービス」 第6版 中央法規出版（ISBN978-4-8058-5596-6）</p>									
留意点	<p>この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。</p>									

科目名	精神保健福祉論		科目コード	W33023	単位数	2単位	対象	4年	開講	前期
	科目ナンバリング		W-PWBF1-24.	時間	30時間	学年				
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	葛西 久志			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神保健福祉論は精神保健福祉制度論A・Bと連動した科目であり、精神障害者の地域での自立と社会参加を促進するための様々な支援システムについて概説する。はじめに、障害者概念から、精神障害者の特性と生活実態(家族会の実態含む)などについて説明する。また、精神障害者の雇用・就労支援などの政策と課題や、居住支援の実態を探りながら説明する。その他、地域ネットワークや、精神保健福祉ボランティア等の生活支援システムについて幅広く解説する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達目標	<p>ICIDHからICFなどの障害者概念の変遷と各種法制度の障害者概念を学ぶ。その中で精神障害者の特性(行動特性)も同時に学ぶ。さらには、精神障害者の概況と生活実態や、家族(家族会含む)の意識調査から現状などを学び、また関連法の中の精神障害者の雇用・就労支援や居住支援等の施策と課題を探りながら学ぶ。後半には、地域ネットワークシステムをはじめ、精神保健福祉ボランティア、ケアマネジメントなどについて幅広く学び手法・技法について身につける。</p>									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	精神障害者の概念①		ICIDHからICFへ、サバイバルスキルとSOS能力、症状ではなく能力レベルで評価					視聴覚(スライド)使用		
第2回	精神障害者の概念②		精神障害者の概念(定義)、精神保健福祉法(第1条・第5条)、障害者基本法、障害者総合支援法					視聴覚(スライド)使用		
第3回	精神障害者の概念③		精神障害者の疾病による影響、日常生活につながる行動特性					視聴覚(スライド)使用		
第4回	精神障害者の生活の実際①		精神障害者の概況①(精神障害者数、入院患者数など厚生労働省のデータ紹介)					視聴覚(スライド)使用		
第5回	精神障害者の生活の実際②		精神障害者の概況②(精神障害者の生活状況など厚生労働省のデータ紹介)					視聴覚(スライド)使用		
第6回	精神障害者の家族の現状①		過去における家族の実態(ぜんかれん調査)、現在の家族の実態(みんなねつと調査)					視聴覚(スライド)使用		
第7回	精神障害者の家族の現状②		家族会に期待すること、家族の7つの提言					視聴覚(スライド)使用		
第8回	精神障害者の雇用・就労支援①		障害者雇用促進法、障害者雇用納付金制度、職業リハビリテーション、他					視聴覚(スライド)使用		
第9回	精神障害者の雇用・就労支援②		ハローワークの事業、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、他					視聴覚(スライド)使用		
第10回	精神障害者の雇用・就労支援③		障害者雇用施策の主な助成金制度、障害者雇用の原則、他					視聴覚(スライド)使用		
第11回	精神障害者の居住支援①		居住支援制度の歴史的展開(イギリス、アメリカ、日本)					視聴覚(VTR)使用		
第12回	精神障害者の居住支援②		グループホーム、一般アパート、保証人制度の課題					視聴覚(スライド)使用		
第13回	地域ネットワークの理解		地域ネットワークの目的と必要性、地域ネットワークの構造、地域ネットワークの課題、他					視聴覚(スライド)使用		
第14回	精神保健福祉ボランティアの育成と活用		精神保健福祉ボランティアとは、精神保健福祉ボランティアの育成と活用、他					視聴覚(スライド)使用		
第15回	ケアマネジメントの実際		民間における相談支援、行政における相談支援					視聴覚(スライド)使用		
評価方法及び評価基準	<p>学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。定期試験はレポート課題とし、6つのテーマ(①障害者の概念②精神障害者の雇用・就業支援③精神障害者の居住支援④地域ネットワーク⑤セルフヘルプグループ⑥精神保健福祉ボランティア)の中から1つ選び、定義、概念等を調べ、肯定的意見や否定的意見などについて自分の意見を書く。そのレポート内容について評価(100%)する。</p>									
課題等	定期試験のレポート課題の作成のためには、様々な文献を検索し、情報を整理する。									
事前事後学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に医・職・住のキーワードを元にミクロ・メゾ・マクロの視点で障害者の状況について調べ、現状と今後の展望について考えておく。									
教材教科書参考書	新・精神保健福祉士養成講座第7巻 「精神障害者の生活支援システム」 第3版 中央法規出版(ISBN978-4-8058-5597-3)									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神科リハビリテーション学B		科目コード	W33020	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
	精神保健福祉士指定科目		科目ナンバリング	W-PWBF3-25.		30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小山内 隆生			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	[授業の主旨]精神科リハビリテーションについて、具体的な実施方法について学習する。リハビリテーションの具体的な技法を通して、利用者のニーズに対応した援助・支援プログラムを企画実施するための基本的な考え方を学ぶとともに、精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割・多職種協働のあり方等について理解を深める。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。									
到達 目標	①精神保健福祉士が行うリハビリテーションの知識と技術が理解できる。 ②多職種連携における精神保健福祉士の役割が理解できる。 ③地域リハビリテーションの構成が理解できる。 ④ケアマネジメントの基本的考え方と活用法が理解できる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション 前期のまとめ			1. 授業の進め方 2. 精神科リハビリテーション学Aのまとめ						
第2回	リハビリテーションの分野			医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、教育的リハビリテーション、社会的リハビリテーション						
第3回	精神科作業療法			定義、構造、歴史、基本的考え方						
第4回	行動療法			定義、構造、歴史、基本的考え方						
第5回	認知行動療法			定義、構造、歴史、基本的考え方						
第6回	集団精神療法			定義、構造、歴史、基本的考え方						
第7回	依存症回復プログラム			定義、構造、歴史、基本的考え方						
第8回	デイケア等			定義、構造、歴史、基本的考え方						
第9回	職業リハビリテーションプログラム			意義、歴史、現状、将来の課題						
第10回	社会生活技能訓練			意義、歴史、現状、将来の課題						
第11回	心理教育プログラム			意義、歴史、現状、将来の課題						
第12回	生活訓練プログラム・地域移行			意義、歴史、現状、将来の課題						
第13回	WRAP・当事者研究			意義、歴史、現状、将来の課題						
第14回	コ・プロダクション			定義、展開、役割と機能、育成、将来の課題						
第15回	精神保健ボランティア			授業の振り返り						
評価 方法 及び 評価 基準	授業の参加態度50点、試験50点 出席について：遅刻2回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席扱いとする。									
課題等	リハビリテーションについて理解を深めておくこと									
事前事後 学修	教科書をよく読んでおくように									
教材 教科書 参考書	教科書 ・最新精神保健福祉士養成講座3 精神障害リハビリテーション論 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中央法規 2021									
留意点	教科書に従って授業を進めるので予習復習をよくするように									

科目名	社会福祉実習指導 I		科目コード	W34101	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	通年	
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	柘植 秀通・駒ヶ嶺 裕子			授業 形態	講義	クラス分		
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>前期は、「ソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際」をテーマに、ゲストティーチャー（現場勤務の社会福祉士）による講義を通して、実習先施設・機関の主要な業務内容、ソーシャルワーカーの業務と役割、及び社会福祉実習の内容と実習に向かう心構えなどについて具体的に学ぶ。</p> <p>後期は、社会福祉士とソーシャルワーカーの関係、社会福祉士の新たな役割と機能、実習先施設の範囲と施設の特徴を生かした実習内容と形態、実習スーパービジョン等に関する講義及び実習報告会への参加等を通して実習に対する意識を高める。特に、実習報告会への参加については、実習を経験した先輩の報告に学び、自身の実習に向けて準備すべき事項や必要な学びの内容を確認する機会とする。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>										
到達 目標	<p>1 社会福祉実習の意義や目的を理解し、実習に向けた事前学習に積極的に取り組むとともにしっかりと実習に対する心構えを持つ。</p> <p>2 社会福祉実践者として、単に知識のみでなく、倫理までを含めた総合的な学びの場(社会福祉実習)にふさわしい知識・技能の基礎を身につける。</p>										
授業計画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考				
第1回	オリエンテーション 相談援助実習 ガイドライン1	○授業内容の概要の説明 ○援助実習のガイドラインを通して、学ぶべき内容の概略を知る		第16回	オリエンテーション	後期の授業に関する内容の紹介					
第2回	予習レポート、振り返りシートの作成	○記載例を用いて記載すべき内容、記述上の留意点と評価基準等を確認する		第17回	教科書 第4章 実習の場と形態	第1節 法令上の相談援助実習施設 第2節 フィールド・ソーシャルワークとレジデンシャル・ソーシャルワーク実習					
第3回	教科書 第3章 ソーシャルワーカーとしての社会福祉士	第1節 ソーシャルワーカーとソーシャルワーカーの関係 第2節 ソーシャルワーカーの新たな役割と機能		第18回		第3節 第一次分野と第2次分野と相談援助実習の場 第4節 さまざまな実習の形態					
第4回		第3節 ソーシャルワークの枠組みをとらえるー価値・倫理、知識と技術ー 第4節 ソーシャルワーカーの義務ー		第19回		第1節 実習契約関係の理解					
第5回				第20回	教科書 第5章 契約関係の中にある実習 第2節 実習機関・施設におけるリスクマネジメント 第3節 契約書の例						
第6回	外部講師による講義1 (社会福祉士)	実習に関する基本的学習：ソーシャルワーカーが実習施設・機関で求められる価値・知識・技術		第21回	教科書 第6章 実習スーパービジョンの理解1	第1節 スーパービジョン概論					
第7回	振り返り(1)	「振り返りレポート」と「疑問点」の自習(A41枚)をもとに発表・協議		第22回	教科書 第6章 実習スーパービジョンの理解2	第2節 実習スーパービジョン関係の理解 第3節 実習スーパービジョンの実際					
第8回	外部講師による講義2 (高齢者分野)	高齢者施設におけるソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際		第23回	教科書 第7章 実習機関・施設、地域の理解	第1節 事前学習として実習先を理解する意義 第2節 相談援助実習機関・施設の理解 第3節 実習機関・施設のある地域の理解					
第9回	外部講師による講義3 (障害者就労支援)	障害者の就労支援を担うソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際		第24回							
第10回	振り返り(2)	「振り返りレポート」と「疑問点」の自習(A41枚)をもとに発表・協議		第25回	教科書 第8章 実習機関・施設、地域の利用者理解と援助方法	第1節 実習機関・施設における利用者の理解 第2節 実習機関・施設のある地域における利用者の理解 第3節 援助方法の実際					
第11回	外部講師による講義4 (児童養護施設)	児童養護施設におけるソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際		第26回							
第12回	外部講師による講義5 (社会福祉協議会)	社会福祉協議会におけるソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際		第27回		先輩の体験談を聞く	社会福祉実習に参加した先輩の体験談を聞き、自身の実習への心構えを新たに作る。				
第13回	振り返り(3)	レポート提出、疑問等について、調べてきて、発表を行う。		第28回	全体のまとめ	「なぜ福祉職を目指すのか、私の目指す社会福祉士像」のレポート作成					
第14回	外部講師による講義6 (病院)	医療ソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際		第29回		一年間の学習を振り返り、「実習に向けた学習課題」をレポートにまとめる					
第15回	振り返り(4)	「振り返りレポート」と「疑問点」の自習(A41枚)をもとに発表・協議		第30回		レポートを基に発表と協議					
評価方法 及び 評価基準	○外部講師の講義に対するレポート50%、その他の予習・振り返り及びまとめレポート等50%で評価する。 ・外部講師の講義・報告会のレポートについては、基準を印刷・配布し評価する。 ・予習・振り返り及びまとめレポートについても、上記基準を準用し評価する。										
課題等	予習・振り返りシートは点検後に返却するので指摘された箇所の訂正を行い、以降の学習に生かすこと。										
事前事後学修	予習・振り返りレポートを作成することを通して事前事後学習を行うこと。										
教材 教科書 参考書	教科書：日本社会福祉士養成校協会 監修 白澤政和 編(2015)『社会福祉士 相談援助実習 第2版』中央法規 参考書：一般財団法人厚生労働統計協会 編(2022)『国民の福祉と介護の動向 2021/2022』一般財団法人厚生労働統計協会										
留意点	○前期の授業における成績が60%の点数に満たない学生については面接をし、学習の仕方について指導・助言する。 ○授業においては、積極的な質問・発言を求める。能動的学習姿勢での参加を期待する。 ○レポートの作成に当たっては事前に示された作成上の注意事項に留意し、定められた日時を守って提出すること。										

科目名	社会福祉実習指導Ⅱ		科目コード	W34201	単位数	2単位	対象	3年	開講	通年
	社会福祉専門教育科目 選択	社会福祉士指定科目 必修	科目ナンバリング	W-PWSF2-02.	時間	30時間	学年	3年	学期	
区分	担当者名		松本 郁代・小川 幸裕・高橋 和幸・丸山 龍太・駒ヶ嶺 裕子			授業形態	講義		クラス分	
授業の概要	〔授業の主旨〕 〔キーワード:準備、計画、実践、振り返り〕 実習期間を中心として、実習への備えとしての計画・準備から始まり、実習後の振り返りに関して、学ぶべき内容を深める。									
	〔ディプロマポリシー(以下DP)及びカリキュラムポリシー(CP)との関連〕DP1, 2, 3 CP1, 2, 4に関連する。									
到達目標	①実践の場に出て、自らの不足を理解し、必要な改善を行えるようになる。 ②利用者個々の尊厳を理解し、その尊厳を尊重する意志を持つようになる。									
授業計画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	オリエンテーション	実習の意義目的の理解、受講上の諸注意等を配布書類をもとに確認する	合同	第16回	オリエンテーション	①後期スケジュールの確認 ②実習報告会についての確認 ③個人総括書の作成についての確認を行う	合同			
第2回	事前学習 1	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う(施設・機関の特性、法的根拠)	グループディスカッション	第17回	実習振り返り 1	実習事後指導を行う ①グループで振り返り ②個人総括書の作成 ③個別スーパービジョン	グループディスカッション			
第3回	事前学習 2	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う(施設・機関の特性、法的根拠)	グループディスカッション	第18回	実習振り返り 2	実習事後指導を行う ①グループで振り返り ②個人総括書の作成 ③個別スーパービジョン	グループディスカッション			
第4回	事前学習 3	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う(施設・機関の対象者)	グループディスカッション	第19回	実習振り返り 3	実習事後指導を行う ①グループで振り返り ②個人総括書の作成 ③個別スーパービジョン	グループディスカッション			
第5回	事前学習 4	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う(求められるSWの価値・理念)	グループディスカッション	第20回	実習振り返り 4	実習事後指導を行う ①グループで振り返り ②個人総括書の作成 ③個別スーパービジョン	グループディスカッション			
第6回	事前学習 5	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う(求められるSWの価値・理念)	グループディスカッション	第21回	実習振り返り 5	実習事後指導を行う ①グループで振り返り ②個人総括書の作成 ③個別スーパービジョン	グループディスカッション			
第7回	事前学習 6	①実習計画書の作成指導 ②実習前に抱えた課題等を確認する	グループディスカッション	第22回	実習報告準備 1	実習報告会に備え準備を行う ①レジュメの作成等	グループディスカッション			
第8回	事前学習 7	①実習計画書の作成指導 ②実習時のスーパービジョンについて理解を深める	グループディスカッション	第23回	実習報告準備 2	実習報告会に備え準備を行う ①レジュメの作成等	グループディスカッション			
第9回	実習準備 1	①実習計画書の作成指導 ②事前打ち合わせの意義、目的等を確認する	グループディスカッション	第24回	実習報告準備 3	実習報告会に備え準備を行う ①レジュメの作成等 ②当日の役割分担の決定(司会・タイムキーパー・書記)	グループディスカッション			
第10回	実習準備 2	①実習計画書の作成指導 ②実習日誌の記載法の留意点等を確認する	グループディスカッション	第25回	実習報告会 1	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループディスカッション			
第11回	実習準備 3	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う(施設・機関の対象者)	グループディスカッション	第26回	実習報告会 2	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループディスカッション			
第12回	実習準備 4	①事前打ち合わせ後の修正を行う(実習計画書、プログラム調整等)	グループディスカッション	第27回	実習総括書最終作成	個人総括書の修正、完成を図る	グループディスカッション			
第13回	実習準備 5	①事前打ち合わせ後の修正を行う(実習計画書、プログラム調整等) ②訪問指導の目的、内容を理解する	グループディスカッション	第28回	実習総括書最終作成	個人総括書の修正、完成を図る	グループディスカッション			
第14回	実習準備 6	①事前打ち合わせ後の修正を行う(実習計画書、プログラム調整等) ②実習上の諸注意を確認する	グループディスカッション	第29回	実習総括書最終作成	個人総括書の修正、完成を図る	グループディスカッション			
第15回	実習準備 7	①事前打ち合わせ後の修正を行う(実習計画書、プログラム調整等) ②実習上の諸注意を確認する	グループディスカッション	第30回	振り返り	1年間のまとめを行う	グループディスカッション			
評価方法及び評価基準	実習に向けての準備50%と実習後における振り返り50%で評価する。実習に向けての準備には実習計画書の作成が含まれる。実習後における振り返りには報告会の準備と報告、個人総括書作成が含まれる。 なお、第1回ガイダンスで各種提出書類(個人調査・誓約書・科目等履修状況・実習計画書・報告会レジュメ・個人総括書)の締切日時を提示するので厳守のこと。これらの提出書類について締切を1回でも守らない場合は、単位認定できないので注意すること。									
課題等	上記の通り、実習計画書・報告会レジュメ・個人総括書の作成の他、必要に応じて適宜指示する。									
事前事後学修	事前学習では指定のテキストや社会福祉実習の手引きを読んでくる。事後学習では更に知識を深めるために社会福祉小六法を活用して関係法令を調べ補足する。また、演習中に疑問に感じたことや知識不足を感じた箇所についてはその解消に向けて文献などを調べ補足する。									
教材教科書参考書	長谷川匡俊・上野屋加代子・白澤政和 他編(2014)『社会福祉士相談援助実習』中央法規 ISBN 978-4-8058-3952-2 ミネルヴァ書房編集部編(2023)『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房 ISBN 978-4-623-09309-0 (毎年3月発行最新版が望ましい)									
留意点	実際に実習へ出て行くことを前提に、全ての行動を律するように。									

科目名	社会福祉調査実習 A		科目コード	W35001	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	4年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWSF2-04.						
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	実習	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>インタビュー調査等の質的調査またはアンケートを用いた量的調査のいずれかを企画する。調査テーマはメンバーの話し合いによって決める。これまで、地域に関する調査、家族に関する調査、生活全般に関する調査などを企画してきた。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの1、3、カリキュラムポリシーの2、3に関連する</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の方法を理解する ・社会調査によって明らかにできることを理解する ・仮説を立てられるようになる ・社会調査全体の流れを理解する 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	社会福祉調査とは何か (1)		これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ							
第2回	社会福祉調査とは何か (2)		これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ							
第3回	社会福祉調査とは何か (3)		これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ							
第4回	社会福祉調査とは何か (4)		これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ							
第5回	調査テーマの検討 (1)		話し合いをしながら調査テーマを考える					ディスカッション		
第6回	調査テーマの検討 (2)		話し合いをしながら調査テーマを考える					ディスカッション		
第7回	調査テーマの検討 (3)		話し合いをしながら調査テーマを考える					ディスカッション		
第8回	調査テーマの検討 (4)		話し合いをしながら調査テーマを考える					ディスカッション		
第9回	調査テーマの検討 (5)		話し合いをしながら調査テーマを考える					ディスカッション		
第10回	先行研究の検討 (1)		調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる					ディスカッション		
第11回	先行研究の検討 (2)		調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる					ディスカッション		
第12回	先行研究の検討 (3)		調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる					ディスカッション		
第13回	先行研究の検討 (4)		調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる					ディスカッション		
第14回	実査の企画 (1)		実際に行う調査の方法、時期等を検討する					ディスカッション		
第15回	実査の企画 (2)		実際に行う調査の方法、時期等を検討する					ディスカッション		
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度、課題への取り組みを総合的に評価します									
課題等	調査テーマ案、調査仮説案等について課題を出します。これらについては、授業中に検討します									
事前 事後 学修	調査テーマ案、調査仮説案等について、自分なりに考えてみてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	参考書は、授業中に適宜指示します。									
留意点	社会調査は、実際に経験することで理解が深まります。積極的な参加を歓迎します。									

科目名	社会福祉調査実習B		科目コード	W35002	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWSF2-05.		30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	実習	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会福祉調査実習Aで企画した社会調査の内容を踏まえて、インタビュー調査等の質的調査またはアンケートを用いた量的調査のいずれかを実施する。具体的には、質問票の作成、調査の実施、データの集計、データの分析等を行う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、3、カリキュラムポリシーの2、3に関連する</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・仮説に合わせた質問項目を作成できるようになる ・質問票を用いて実際に調査を行えるようになる ・調査結果を適切に集計できるようになる ・調査データを分析できるようになる 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	質問票の作成 (1)		仮説に合わせた質問項目を作成する					ディスカッション		
第2回	質問票の作成 (2)		仮説に合わせた質問項目を作成する					ディスカッション		
第3回	質問票の作成 (3)		仮説に合わせた質問項目を作成する					ディスカッション		
第4回	質問票の作成 (4)		仮説に合わせた質問項目を作成する					ディスカッション		
第5回	質問票の作成 (5)		仮説に合わせた質問項目を作成する					ディスカッション		
第6回	調査の実施 (1)		実際に調査を行う							
第7回	調査の実施 (2)		実際に調査を行う							
第8回	調査の実施 (3)		実際に調査を行う							
第9回	調査の実施 (4)		実際に調査を行う							
第10回	調査結果の集計 (1)		調査によって得られたデータを集計する							
第11回	調査結果の集計 (2)		調査によって得られたデータを集計する							
第12回	調査結果の集計 (3)		調査によって得られたデータを集計する							
第13回	調査結果の分析 (1)		集計したデータを仮説と照らし合わせながら分析する					ディスカッション		
第14回	調査結果の分析 (2)		集計したデータを仮説と照らし合わせながら分析する					ディスカッション		
第15回	調査結果の分析 (3)		集計したデータを仮説と照らし合わせながら分析する					ディスカッション		
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度、課題への取り組みを総合的に評価します									
課題等	質問項目案、分析結果等について課題を出します。これらについては、授業中に検討します									
事前事 後学修	質問項目案、分析結果等について、自分なりに考えてみてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	参考書は、授業中に適宜指示します。									
留意点	社会調査は、実際に経験することで理解が深まります。積極的な参加を歓迎します。									

科目名	精神保健福祉実習指導Ⅱ	科目コード	W35005	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	4年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF2-07.						
区分	社会福祉専門教育科目 選択	担当者名	葛西 久志			授業 形態	講義	単独	
	精神保健福祉士指定科目 必修								
授業の 概要	[授業の主旨] 精神保健福祉実習は精神障害者の理解に始まり、制度理解、社会福祉全般の知識や精神保健福祉の援助技術など講義、演習で学んだことを活用する。実習後は、実習計画にあげた課題の成果をふりかえりながら総括し報告書を作成する。また、在学生、教員、実習指導者も招いて公開報告会も実施する。								
	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。								
到達 目標	精神保健福祉の臨床現場における実習を通して、各実習機関（精神科病院、障害福祉サービス事業所など）の役割、機能を把握する。また、最も大切なことは精神障害者への支援・援助を通して、自己理解を深め、気づきのある実習にすることと精神保健福祉士の役割とは何かを学ぶことである。								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考		
第1回	精神保健福祉実習 オリエンテーション	実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解①		第16回	精神保健福祉実習	事例検討（グループスーパービジョン）	ディスカッション		
第2回	精神保健福祉実習	実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解②		第17回	精神保健福祉実習	事例検討（グループスーパービジョン）	ディスカッション		
第3回	精神保健福祉実習	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解①		第18回	精神保健福祉実習	事例検討（グループスーパービジョン）	ディスカッション		
第4回	精神保健福祉実習	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解②		第19回	精神保健福祉実習	事例検討（グループスーパービジョン）	ディスカッション		
第5回	精神保健福祉実習	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む）①		第20回	精神保健福祉実習	事例検討（グループスーパービジョン）	ディスカッション		
第6回	精神保健福祉実習	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む）②		第21回	精神保健福祉実習	事例検討（グループスーパービジョン）	ディスカッション		
第7回	精神保健福祉実習	「実習記録ノート（日誌）」の記録内容及び記録方法に関する理解①		第22回	精神保健福祉実習	事例検討（グループスーパービジョン）	ディスカッション		
第8回	精神保健福祉実習	「実習記録ノート（日誌）」の記録内容及び記録方法に関する理解②		第23回	精神保健福祉実習	実習評価に関する統括（個人面談）			
第9回	精神保健福祉実習	事前訪問と確認事項①		第24回	精神保健福祉実習	実習評価に関する統括（個人面談）			
第10回	精神保健福祉実習	事前訪問と確認事項②		第25回	精神保健福祉実習	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成			
第11回	精神保健福祉実習	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成・確認		第26回	精神保健福祉実習	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成			
第12回	精神保健福祉実習	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成・確認		第27回	精神保健福祉実習	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成			
第13回	精神保健福祉実習	巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）と面談方法について	実習Ⅰ期	第28回	精神保健福祉実習	実習報告会等準備作業・プレゼン方法の理解	プレゼン		
第14回	精神保健福祉実習	巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）と面談方法について	実習Ⅰ期	第29回	精神保健福祉実習	実習報告会	ディスカッション		
第15回	精神保健福祉実習	巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）と面談方法について	実習Ⅰ期	第30回	精神保健福祉実習	実習報告集作成の仕上げ			
評価 方法 及び 評価 基準	実習に関する取り組み状況（実習計画書、他）と総括報告書（50%）や、実習機関からの実習評価（50%）で総合評価する。精神保健福祉実習Ⅰ・Ⅱと事前学習、事後学習から精神保健福祉士の専門性をどのように理解したか、また自己覚知したかを評価する。								
課題等	毎回課題（実習先機関の機能・役割、各種制度など）を与え、資料作成と報告をする。実習計画書を作成し、実習先との打ち合わせを行う。実習修了後は、スーパービジョンを行い、その後は実習総括書を作成し、報告会を実施する。								
事前事後学 修	事前学習では、「精神保健福祉実習の手引き」を読む。実習に向けた資料を理解し実習Ⅰ期に臨む。実習Ⅰ期終了後は、振り返りを行い実習Ⅱ期に向けて準備する。実習Ⅱ期終了後は、自己覚知について検討する。								
教材 教科書 参考書	本学の「精神保健福祉実習の手引き」と資料を配布する予定である。								
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。新型コロナウイルス感染症の感染者が多く、自粛制限が出た時には、実習先と相談する。場合によっては、学内実習に切り替えることもある。								

科目名	専門演習Ⅱ	科目コード	W44604	単位数	4単位	対象	4年	開講	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF3-10.	時間	60時間	学年			
区分	社会福祉専門教育科目 必修	担当者名	石田 和男			授業	形態	演習	単独
授業の概要	〔授業の主旨〕 〔キーワード：人間の尊厳、スピリチュアリティ、ウェルフェア、公助と共助〕 19世紀、20世紀、21世紀と、福祉が発展した経過の中で、キーワードに上っているテーマを一つでも用いて論文を書くこと。そのためにもキーワードを調べておくこと。それを学び、自分のテーマとすることで21世紀の福祉のテーマをマクロに捉えることができる。								
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの4に該当する。								
到達目標	自分の主体的な判断で論文のテーマを決めること。それを表現するスキルを上げる。それが他者にどう伝わるのかを工夫する。単純かつ判明に表現すること。								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考		
第1回	論文の書き方 (1)	題目の設定		第16回	論文作成 (1)	構想と展開 1			
第2回	論文の書き方 (2)	研究の意義について		第17回	論文作成 (2)	構想と展開 2			
第3回	論文の書き方 (3)	方法の検討		第18回	論文作成 (3)	構想と展開 3			
第4回	論文の書き方 (4)	スケジュール		第19回	論文作成 (4)	レイアウト			
第5回	論文の書き方 (5)	文献蒐集		第20回	論文作成 (5)	節の検討 1			
第6回	論文の書き方 (6)	文献の検討 1		第21回	論文作成 (6)	節の検討 2			
第7回	論文の書き方 (7)	文献の検討 2		第22回	論文作成 (7)	節の検討 3			
第8回	論文の書き方 (8)	文献の検討 3		第23回	論文作成 (8)	中間発表			
第9回	論文の書き方 (9)	文献の検討 4		第24回	論文作成 (9)	記述内容の検討 1			
第10回	論文の書き方 (10)	文献の検討 5		第25回	論文作成 (10)	記述内容の検討 2			
第11回	論文の書き方 (11)	文献の検討 6		第26回	論文作成 (11)	記述内容の検討 3			
第12回	論文の書き方 (12)	文献の検討 7		第27回	論文作成 (12)	記述内容の検討 4			
第13回	論文の書き方 (13)	文献の検討 8		第28回	論文作成 (13)	引用、参考文献の整備			
第14回	論文の読み (1)	文献の講読と検討 (1)		第29回	論文作成 (14)	レジュメの作成			
第15回	論文の読み (2)	文献の講読と検討 (2)		第30回	論文作成 (15)	発表			
評価方法及び評価基準	出席、予習、発表、復習（ノートを1ヶ月事に点検）を総合的に評価する。								
課題等	主題ごとの調査をしっかりと行うこと。記録をノートにとり、後日内容を点検する。								
事前事後学修	各テーマにわたってしっかり調査+学習を要する。その上で論文作成作業へ入っていく。								
教材教科書参考書	『当事者研究』熊谷晋一郎、岩波書店。ISBN:978-4-4-00-006337-1								
留意点	毎回前進する必要があるため、予習をしておくこと。								

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)	科目コード	W44402	単位数 時間	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF3-10.		90時間				
区分	社会福祉専門教育科目 選択	担当者名	葛西 久志			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	[授業の主旨] 地域における様々な精神保健福祉問題(うつ病・自殺予防対策、アデクシオン(アルコール依存症、ギャンブル依存等)対策問題、高齢者認知症対策問題、社会的ひきこもり等)からテーマを取り上げ、研究レポートを作成する。								
	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの1、4に関連する。								
到達 目標	仮テーマ設定から始まり、事前調査の中で先行研究や、様々な調査研究等から、独自性あるテーマを考え、研究目的、研究方法を明確にして、卒業論文を完成させることが最終かつ最大目標とする。								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考		
第1回	ガイダンス	卒論執筆活動の流れ等説明		第16回	卒論指導	スケジュール、構成等の再確認			
第2回	個人面談	スケジュール・暫定テーマ	ディスカッション	第17回	卒論指導	卒論個別指導	ディスカッション		
第3回	個人面談	スケジュール・暫定テーマ	ディスカッション	第18回	卒論指導	卒論個別指導	ディスカッション		
第4回	卒論指導	論文の書き方	ディスカッション	第19回	卒論指導	卒論個別指導	ディスカッション		
第5回	卒論指導	文献の探し方	ディスカッション	第20回	卒論指導	卒論個別指導	ディスカッション		
第6回	卒論指導	文献の探し方	ディスカッション	第21回	卒論指導	卒論個別指導	ディスカッション		
第7回	卒論指導	論文素描：仮説	ディスカッション	第22回	卒論指導	卒論個別指導	ディスカッション		
第8回	卒論指導	論文素描：仮説	ディスカッション	第23回	卒論指導	卒論個別指導	ディスカッション		
第9回	卒論指導	論文素描：研究方法	ディスカッション	第24回	卒論指導	卒論個別指導	ディスカッション		
第10回	卒論指導	論文素描：研究方法	ディスカッション	第25回	卒論指導	卒論個別指導	ディスカッション		
第11回	卒論指導	論文構成：章立て	ディスカッション	第26回	卒論指導	卒論個別指導	ディスカッション		
第12回	卒論指導	論文構成：章立て	ディスカッション	第27回	卒論指導	卒論個別指導	ディスカッション		
第13回	卒論指導	論文構成：章立て	ディスカッション	第28回	卒論指導	卒論個別指導	ディスカッション		
第14回	中間発表会	タイトル・序論など	ディスカッション	第29回	卒論研究発表会	卒論研究発表			
第15回	前期まとめ	中間発表からのふりかえり	ディスカッション	第30回	総まとめ	卒論研究発表のふりかえり			
評価 方法 及び 評価 基準	卒業論文の作成過程状況(40%)や、論文の内容(60%)などで総合評価する。テーマ設定(仮説設定)の根拠、文献収集状況、論文構成状況と、自分の考えが論理的に作成されているかをなど総合評価する。								
課題等	仮テーマに合致する内容の先行文献を選別していく。その後、本テーマを決めて、ひたすら文章を作成し、その後構成していく。中間発表で軌道修正し、さらに文章作成していきまとめる。								
事前事後学修	事前学習では、テーマに沿った先行文献をひたすら探し集める。文献の中からさらに、テーマに合うものを探し、章立てをプランする。その後、プランに沿って文章を作成していく。作成完了後、報告をしてフィードバック作業し終了する。								
教材 教科書 参考書	資料配布(卒業論文の書き方など)、他は適宜個別指示する。								
留意点	国家試験対策(受験対策方法、精神保健福祉に関する知識の整理)へのアドバイスも行う。								

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)	科目コード	W44405	単位数 時間	6単位 90時間	対象 学年	4年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF3-10.						
区分	社会福祉専門教育科目 選択	担当者名	松本 郁代			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 日本における社会福祉の歴史について、テーマを設定し、論文もしくはレポートを執筆する。								
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの4に関連している。								
到達 目標	卒業論文またはレポートを執筆すること。安易に「論文」・「研究」という言葉を使わず、内実の伴ったものを執筆できるようになること。								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考		
第1回	論文を書く前に①	論文とレポートの違い		第16回	論文のきまり	論文執筆のイロハ			
第2回	論文を書く前に②	何のために、何を書くのか		第17回	引用の示し方	参考は学会誌			
第3回	年間計画の立て方	限定された時間を論文執筆に充てる方法		第18回	参考文献・引用文献の書き方	怪しい文献リストは、論文の命取り			
第4回	テーマ設定の仕方①	それを勉強しないと生きていけないテーマとは？		第19回	専門用語の定義	論文で使用する用語は定義が必要			
第5回	テーマ設定の仕方②	先行研究を越えて		第20回	事実と意見の分け方	事実と意見を分けよう			
第6回	先行研究の探し方	研究レビューのない論文は、論文ではない		第21回	論理的に書くには	「逆茂木」の文章とは			
第7回	先行研究の読み方	先行研究に敬意をはらう		第22回	註と見出し	註のない論文は、論文か？			
第8回	研究方法の選び方	歴史的研究は、文献研究のみ？		第23回	論文構成の実際	論文のアウトラインを作ろう			
第9回	調査的面接の実際①	インタビューをする前に		第24回	卒論の展開の仕方	卒論の限界			
第10回	調査的面接の実際②	インタビューをしてみよう		第25回	論文の点検と推敲	別の環境で推敲せよ			
第11回	研究の倫理①	研究の節度		第26回	卒論の報告・議論①	書きたいことを口頭で説明する			
第12回	研究の倫理②	「コピペ」を越えて		第27回	卒論の報告・議論②	書きたいことについて、批判をもらう			
第13回	文献検索の方法①	図書館利用方法		第28回	卒論発表の実際	書いた卒論を披露する			
第14回	文献検索の方法②	他大学などの図書館利用方法		第29回	発表論文への道	本当に「論文」になっているなら			
第15回	文献検索の方法③	公文書館利用方法		第30回	まとめ	一年間を振り返って			
評価 方法 及び 評価 基準	演習への参加度および平常点と卒論・レポートを半々で評価する。								
課題等	その都度、指示をする。								
事前事後学 修	その都度、指示をする。								
教材 教科書 参考書	白井利明・高橋一郎著(2013)『やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ よくわかる卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房 ISBN:978-4-623-06572-1 鈴木淳子(2002)『調査的面接の技法』ナカニシヤ出版 ISBN:4-88848-693-x								
留意点	「社会福祉発達史A・B」を修得していること。 勝手に他の教員の指導を受けないこと。これは、アカデミックな機関におけるイロハにあたることを認識しておくこと。								

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)	科目コード	W44505	単位数 時間	6単位 90時間	対象 学年	4年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF3-10.						
区分	社会福祉専門教育科目 選択	担当者名	棟方 達也			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	<p>[授業の主旨] 卒業研究はスポーツに関するテーマを扱う。尚、研究の成果は必ずしも論文形式とは限らない。各自の設定課題、テーマに対して最もふさわしい形式(論文の他、視察・体験報告、企画、創作等)を選択して良い。従って、当然ながら、授業時間外の活動、調査、作業等も相応に求められることになる。「グループワーク」、「フィールドワーク」、「プレゼンテーション」及び「反転学習」等のアクティブラーニング要素を含む。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2及び3に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>								
到達 目標	卒業研究の完成								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考		
第1回	ガイダンス	本ゼミの受講にあたっての諸注意と確認		第16回	夏期休業中実績報告会	夏期休業前の計画をふまえた実績報告	プレゼンテーション		
第2回	年間計画	卒業研究の他、専門演習Ⅰの実習との関わり方を含む(オブザーバー)		第17回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第3回	卒業研究指導	テーマの確認(テーマの絞り込み)		第18回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第4回	卒業研究指導	研究形式の決定と研究計画(研究構想の提示)		第19回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第5回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)		第20回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第6回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)		第21回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第7回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)		第22回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)※状況によっては中間発表会	プレゼンテーション		
第8回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)		第23回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第9回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)		第24回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第10回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)		第25回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第11回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)		第26回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)			
第12回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)		第27回	研究成果の提出	内容確認、補足、修正等			
第13回	卒業研究指導	中間発表準備(レジュメ準備)		第28回	研究成果確定	確認及び発表形式について			
第14回	中間発表会	ppt.その他の形式による発表(レジュメ準備)	プレゼンテーション	第29回	最終発表準備	発表準備(レジュメ準備)と最終確認			
第15回	夏期休業中の計画	テーマ・研究形式に応じたスケジュールの確認		第30回	最終発表会	研究形式に応じた発表と評価	プレゼンテーション		
評価 方法 及び 評価 基準	報告と中間発表:20% 卒業研究成果:60% 研究形式に即した内容と成果のまとめ方を評価する。 ※オブザーバーとして演習Ⅰの実習をサポートした場合は、その状況も考慮する。(20%) <input type="checkbox"/>								
課題等	各自の設定課題、テーマに対して最もふさわしい形式(論文の他、視察・体験報告、企画、創作等)を選択する。								
事前事後学 修	テーマによっては、学外での活動に多くの時間(宿泊、遠征を伴う場合もあり=フィールドワーク)を要する場合もある。								
教材 教科書 参考書	研究テーマ次第								
留意点	3年次の専門演習Ⅰは棟方ゼミを履修していることが望ましい。								

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)		科目コード	W44504	単位数	4単位	対象	4年	開講	通年
			科目ナンバリング	W-PWSF3-10.	時間	60時間	学年		学期	
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	高橋 和幸			授業	形態	演習	単独
授業の概要	[授業の主旨] 専門演習Ⅰで調べた内容について更に深く掘り下げて調査を行う。たとえば、海外ではどのように対策が取り組まれているか、国内での先進事例はどうなっているか探し、あるいは地元での地道な取り組みに密着取材する等が考えられる。卒業論文として一生の思い出になるものを完成させることをねらいとする。									
	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1.2.3に関連し、カリキュラムポリシーの1.2.4に関連する。									
到達目標	自分の力で研究課題を設定し、信念をもって調べ、納得のいく卒論を完成させること。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	オリエンテーション	演習の進め方を説明。(次回までに研究テーマを準備のこと)		第16回	集めたデータと、自分の研究計画とをつき合わせて、経過報告書を作成	集めたデータと、自分の研究計画とをつき合わせて、経過報告書を作成(次の発表に備える)				
第2回	テーマの検討	持参した研究テーマについてのレジュメを報告しあう(次回までに研究計画下書きを準備)	プレゼンテーション・ディスカッション	第17回	経過報告① ゼミ生2人程度	経過報告① ゼミ生2人程度	プレゼンテーション・ディスカッション			
第3回	テーマの大枠を設定	研究計画下書きを報告。(次回までに先行研究の文献リストを準備)	プレゼンテーション・ディスカッション	第18回	経過報告② ゼミ生2人程度	経過報告① ゼミ生2人程度	プレゼンテーション・ディスカッション			
第4回	先行研究などの資料収集にあたって、どんな方法で、どんな視点でみるべきか討論	先行研究文献リストを発表しあう。(先行研究探しを継続のこと)	プレゼンテーション・ディスカッション	第19回	追跡調査、追加で行うべき調査について討論	追跡調査、追加で行うべき調査について討論	プレゼンテーション・ディスカッション			
第5回	先行研究の資料収集に関する情報交換	先行研究の資料収集に関する情報交換を行う	プレゼンテーション・ディスカッション	第20回	章立て構成の検討	章立て構成の検討を行う(次回まで追跡調査結果を発表できるようレジュメを準備)	グループワーク			
第6回	研究分野が近い学生同士が班になり、助け合っ図書館にて文献収集を行う。また、Web接続しながら資料検索を行う①	研究分野が近い学生同士が班になり、助け合っ図書館にて文献収集を行う。また、Web接続しながら資料検索を行う。	Webを活用した他館蔵書検索含む	第21回	追加で行った調査結果を含め状況報告	追加で行った調査結果を含め状況報告	プレゼンテーション・ディスカッション			
第7回	共同での調査②	前回の続きを行う(調査結果を次回までにレジュメにまとめて持参)。不足部分はWebに接続しながら追跡調査する。	Webを活用した他館蔵書検索含む	第22回	追加で行った調査結果を含め状況報告	追加で行った調査結果を含め状況報告(次回までに論文執筆状況報告レジュメを用意)				
第8回	調べた結果についての報告、意見交換	調べた結果についての報告、意見交換。助言を踏まえて再調査。	プレゼンテーション・ディスカッション	第23回	論文執筆状況報告、意見交換	論文執筆状況報告、意見交換	プレゼンテーション・ディスカッション			
第9回	調べた結果についての報告、意見交換	調べた結果についての報告、意見交換。助言を踏まえて再調査。	プレゼンテーション・ディスカッション	第24回	再確認や再度の追跡調査の必要がないかデータの分析や解釈について討論	再確認や再度の追跡調査の必要がないかデータの分析や解釈について討論	プレゼンテーション・ディスカッション			
第10回	仮説の設定と調査方法の検討①	自分の調べたいテーマを本格的に決め、適した調査方法を考える。発表して質疑応答。	プレゼンテーション・ディスカッション	第25回	論文執筆状況報告、意見交換	論文執筆状況報告、意見交換(次回までに卒論の調査結果についてパワーポイント発表できるように下書きを作成して持参)				
第11回	仮説の設定と調査方法の検討②	自分の調べたいテーマを本格的に決め、適した調査方法を考える。発表して質疑応答。	プレゼンテーション・ディスカッション	第26回	パワーポイントによる最終発表の準備	発表スライドの下書きで予行練習。修正の指摘をもらう	プレゼンテーション・ディスカッション			
第12回	論文の書き方について復習	論文の書き方について復習する(次回までに研究計画書を作成し持参)	プレゼンテーション・ディスカッション	第27回	最終発表会①(質疑応答含む)	最終発表会①(質疑応答含む)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第13回	研究計画書を作成	研究計画書を発表、質疑応答。(次回までに助言を踏まえた計画書の修正版作成のこと)	プレゼンテーション・ディスカッション	第28回	最終発表会②(質疑応答含む)	最終発表会②(質疑応答含む)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第14回	意見交換を踏まえ研究計画書を作成	最終的な研究計画書の提出、発表。質疑応答。	プレゼンテーション・ディスカッション	第29回	発表会での指摘を受けて加筆・修正	発表会での指摘を受けて加筆・修正(卒論を次回提出できるよう用意のこと)				
第15回	前半の振り返り	前半の振り返りと、夏休み中の調査実施に関わる諸注意。		第30回	一年間の振り返り(成果の分かち合い)	一年間の振り返り(成果の分かち合い)、卒論提出。慰労会。				
評価方法及び評価基準	参加態度30%と卒業研究の成果物(論文等)70%の総合評価。(参加態度):研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらうことで評価する。(研究成果物):主に論文については関心・意欲・問題解決の思考・判断・技能・表現方法の観点から評価を行う。									
課題等	卒業研究の成果物(論文等)ならびに、研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらう。									
事前事後学修	研究テーマの設定に向けて先行研究を調べ、じっくりと読んで吟味すること。研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらうので、授業の中で指摘された不足している知識や新たな課題に取り組むこと。予習復習はそれぞれ2時間以上行うこと。									
教材教科書参考書	各自、専門領域を調査することになるので、ゼミ生共通のテキストは無し。適宜、各自のテーマに合った参考書を紹介する。									
留意点	論文の作成状況は、就職活動の影響も受けるし、調べる領域によっては先行研究が少なく文献探索に長期間を要すること等も影響する。発表すべきときに発表レジュメが間に合わないということがないように計画的な行動を心掛けてもらいたい。発表日の欠席は厳に慎んでもらいたい。また、この科目は必修科目ではなく選択科目であり、「研究課題を設定し、信念をもって調べ、納得のいく卒論を完成させる」という目標に取り組める意欲のある方に履修して頂きたい。									

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)		科目コード	W44501	単位数	6単位	対象学年	4年	開講学期	通年	
			科目ナンバリング	W-PWSF3-10.	時間	90時間					
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	小川 幸裕				授業形態	演習	単独	
授業の概要	〔授業の主旨〕 社会福祉に関する諸問題について、自らが興味関心を持ったテーマを選び、これまで修得してきた知識や技能を統合して研究を行い、卒業論文またはレポートをまとめることを目指す。卒業論文やレポートの作成に伴う、「研究テーマの設定」「先行研究のレビュー」「研究の背景・目的」「研究方法」「考察」などに関するレジュメの作成および報告を行う。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2及び4に関連している。										
到達目標	1) 研究テーマを設定することができる。 2) 先行研究のレビューを行うことができる。 3) 研究の背景および目的を記載することができる。 4) 研究方法を記載できる。 5) 考察を記載できる。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考
第1回	オリエンテーション	1) 演習の進め方 2) 評価方法および基準				第16回	考察の検討(1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第2回	研究テーマの設定(1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第17回	考察の検討(2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第3回	研究テーマの設定(2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第18回	考察の検討(3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第4回	研究テーマの設定(3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第19回	考察の検討(4)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第5回	先行研究のレビュー(1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第20回	報告・議論(1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第6回	先行研究のレビュー(2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第21回	報告・議論(2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第7回	先行研究のレビュー(3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第22回	報告・議論(3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第8回	先行研究のレビュー(4)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第23回	報告・議論(4)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第9回	研究の背景・目的の検討(1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第24回	報告・議論(5)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第10回	研究の背景・目的の検討(2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第25回	報告・議論(6)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第11回	研究の背景・目的の検討(3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第26回	報告・議論(7)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第12回	研究方法の検討(1)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第27回	報告・議論(8)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第13回	研究方法の検討(2)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第28回	報告・議論(9)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第14回	研究方法の検討(3)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第29回	報告・議論(10)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション
第15回	研究方法の検討(4)	1) レジュメの報告 2) 全体討論			ディスカッション	第30回	まとめ	1) 卒論発表 2) 総括			ディスカッション
評価方法及び評価基準	1) 卒業論文・レポート70%、レジュメ作成および報告30% 2) 卒業論文・レポートの執筆にあたって、先行研究のレビュー、研究の背景・目的、研究方法、考察などの執筆過程についても評価する。 3) 卒業論文・レポートは、着眼点、構成と文章力、その内容の論理性、妥当性、客観性、オリジナリティ、先行研究などの収集とまとめ、その到達レベルについてルーブリックを用いて評価する。										
課題等	フィードバックとして報告内容やレジュメについてコメントを返します										
事前事後学修	演習時にて次回の予告を行うので関連するサイトや文献を事前に学習すること。また演習中に案内するサイトや文献による事後学習を行うこと。 準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。										
教材教科書参考書	学生の研究内容に応じ、必要な資料や文献を指示する。										
留意点	卒業論文およびレポートの作成に意欲的に取り組むことを期待します。ゼミとしてソーシャルワークに関する活動の見学やボランティア、関連イベントや研修会に参加する場合もある。										

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)	科目コード	W44603	単位数 時間	6単位 90時間	対象 学年	4年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF3-10.						
区分	社会福祉専門教育科目 選択	担当者名	藤岡 真之				授業 形態	演習	単独
授業の 概要	〔授業の主旨〕 この演習では、大学で4年間学んできたことの証しとして卒業論文を執筆します。卒業論文を完成させた暁には、大きな達成感と共に、これまで見たことのない景色を見ることができるでしょう。論文のテーマについては各自の関心を重んじます。								
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、3、カリキュラムポリシーの3に関連する								
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの力で問いを立てられる。 ・問いに対応した適切な方法を考えられる。 ・データの解釈や理論的検討を元に、妥当な結論を導くことができる。 								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考		
第1回	ガイダンス	演習の進め方について		第16回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第2回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ		第17回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第3回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ		第18回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第4回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ		第19回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第5回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第20回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第6回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第21回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第7回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第22回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第8回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第23回	中間報告	途中経過を報告する			
第9回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第24回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第10回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第25回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第11回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第26回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第12回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第27回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第13回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第28回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第14回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第29回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第15回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第30回	論文の発表	完成した論文を発表する			
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度、途中の報告、卒業論文を総合的に評価します								
課題等	課題の検討は授業時間内に行います								
事前事後学 修	文献読解、調査の準備・実施等を継続的に行ってください。準備学習時間の目安：1日当たり1時間程度。								
教材 教科書 参考書	適宜、指示します								
留意点									

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)	科目コード	W44602		単位数	6単位	対象学年	4年	開講学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF3-10.		時間	90時間				
区分	社会福祉専門教育科目 選択	担当者名	柘植 秀通					授業形態	演習	単独
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 社会福祉の基本には、人とは何であるか、人間の存在価値とはなにか、幸福とは何か、といった哲学的に深い問題がある。こうした哲学的問題を、それぞれの発表や討論等を通して、学ぶ。また、特に後期は、国家試験を受験する場合には、国試の勉強に特化して行うことも考えている。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2と関連する。</p>									
到達目標	人間の尊厳とはなにか、なぜ人間は尊いといえるのか、といった問題に自分なりの答えを出せるようになること。また、国試を受ける者は、国家試験に合格できるようになること。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要説明		第16回	人工妊娠中絶について1	妊娠中絶がどこまで許されるべきか、また許されざるべきかを考察、意見交換	グループワーク			
第2回	福祉と哲学1	哲学とは何であり、福祉とどのような関係にあるかについての考察発表	グループワーク	第17回	人工妊娠中絶について2	妊娠中絶がどこまで許されるべきか、また許されざるべきかを考察、意見交換	グループワーク			
第3回	福祉と哲学2	哲学とは何であり、福祉とどのような関係にあるかについての考察発表	グループワーク	第18回	安楽死について1	安楽死が許されるケースについて、また許されない理由について考察、意見交換	グループワーク			
第4回	人間の尊厳1	人間の尊厳について考察、発表を行う。	グループワーク	第19回	安楽死について1	安楽死が許されるケースについて、また許されない理由について考察、意見交換	グループワーク			
第5回	人間の尊厳2	人間の尊厳について考察、発表を行う。	グループワーク	第20回	性同一性障害について1	性同一性障害の原因と、倫理的な意味について考察する。	グループワーク			
第6回	人間の尊厳3	人間の尊厳について考察、発表を行う。	グループワーク	第21回	性同一性障害について1	性同一性障害の原因と、倫理的な意味について考察する。	グループワーク			
第7回	自由について1	自由の意味について考える	グループワーク	第22回	サイボーグ技術と人間のあり方1	進展しているサイボーグ技術について、特に障害や内部障がいとの関わりから考える。	グループワーク			
第8回	自由について2	自由の意味について考える	グループワーク	第23回	サイボーグ技術と人間のあり方1	進展しているサイボーグ技術について、特に障害や内部障がいとの関わりから考える。	グループワーク			
第9回	自己決定について1	本来の意味の自己決定とは何であるかを考察する。	グループワーク	第24回	難民と戦争1	難民の問題と、日本の進むべき方向について考察する。	グループワーク			
第10回	自己決定について2	本来の意味の自己決定とは何であるかを考察する。	グループワーク	第25回	難民と戦争1	難民の問題と、日本の進むべき方向について考察する。	グループワーク			
第11回	キリスト教倫理について1	キリスト教倫理について、概説と意見交換	グループワーク	第26回	世界の貧困問題1	貧困とは何か。その問題点について考察する。	グループワーク			
第12回	キリスト教倫理について1	キリスト教倫理とは何かについて討論を行う	グループワーク	第27回	世界の貧困問題1	貧困とは何か。その問題点について考察する。	グループワーク			
第13回	キリスト教倫理について1	キリスト教倫理とは何かについて討論を行う	グループワーク	第28回	人間の存在価値について1	一人一人の価値について考える。	グループワーク			
第14回	生命について1	生命とは何かについて考察、討論	グループワーク	第29回	人間の存在価値について1	一人一人の価値について考える。	グループワーク			
第15回	生命について1	生命とは何かについて考察、討論	グループワーク	第30回	福祉の意味について	福祉の根本的意味について考察する。	グループワーク			
評価方法及び評価基準	それぞれのテーマで、発表を行いながら、卒業論文にまでつなげていき、論文内容で80%。それに加えて、授業内での参加度20%。論文内容とは、その論旨の展開、研究方法の正当性、資料の使用法等に関し評価を行う。									
課題等	論文について修正すべきポイント、なすべき課題を随時提供する。									
事前事後学修	論文についての課題、修正すべき箇所等を改善しつつ、次回へとつなげていく。									
教材教科書参考書	特になし									
留意点	論文のみでなく、国家試験の勉強も同時に行っていく。									